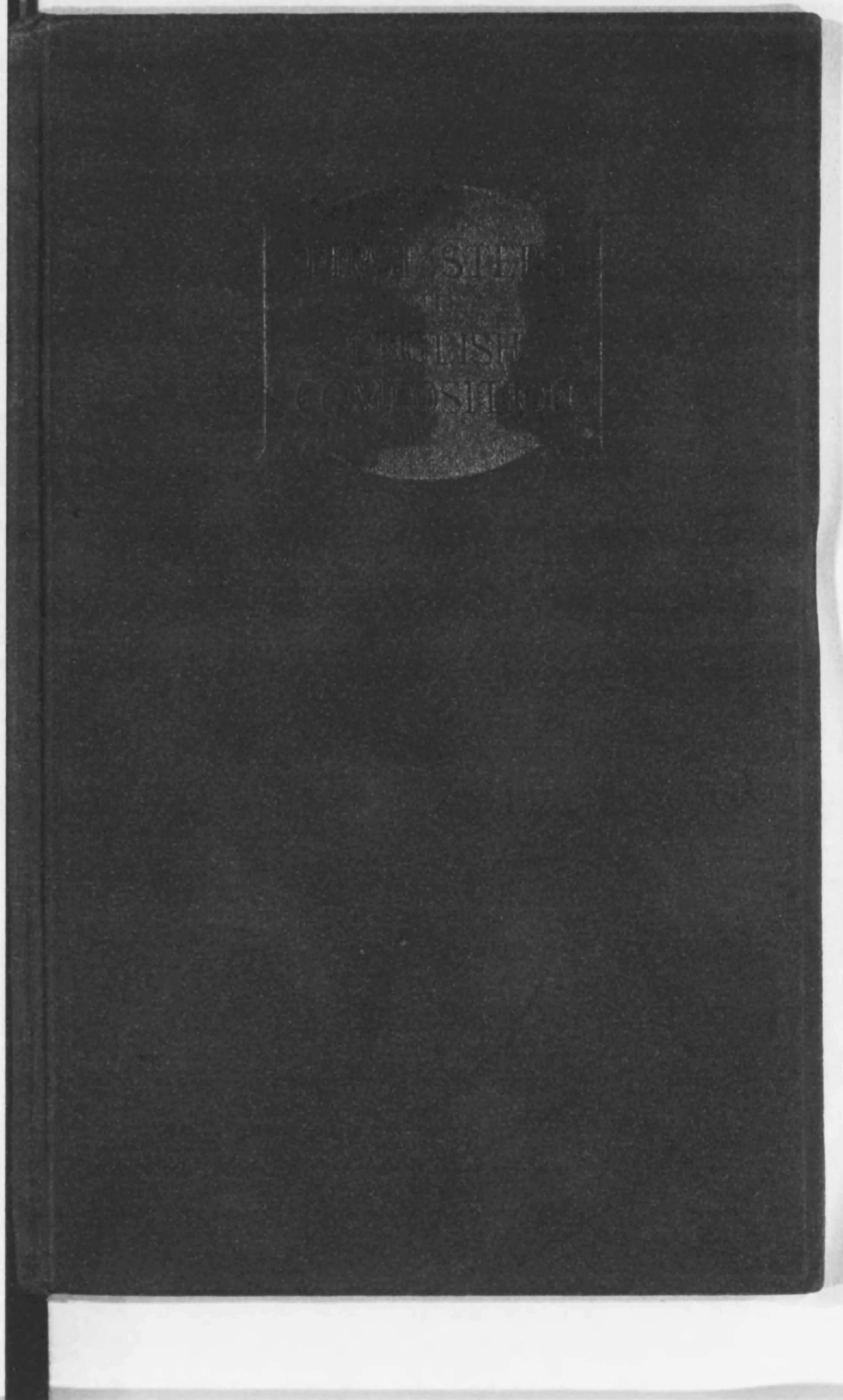
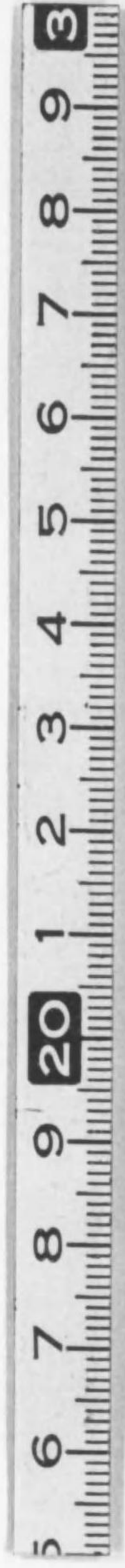
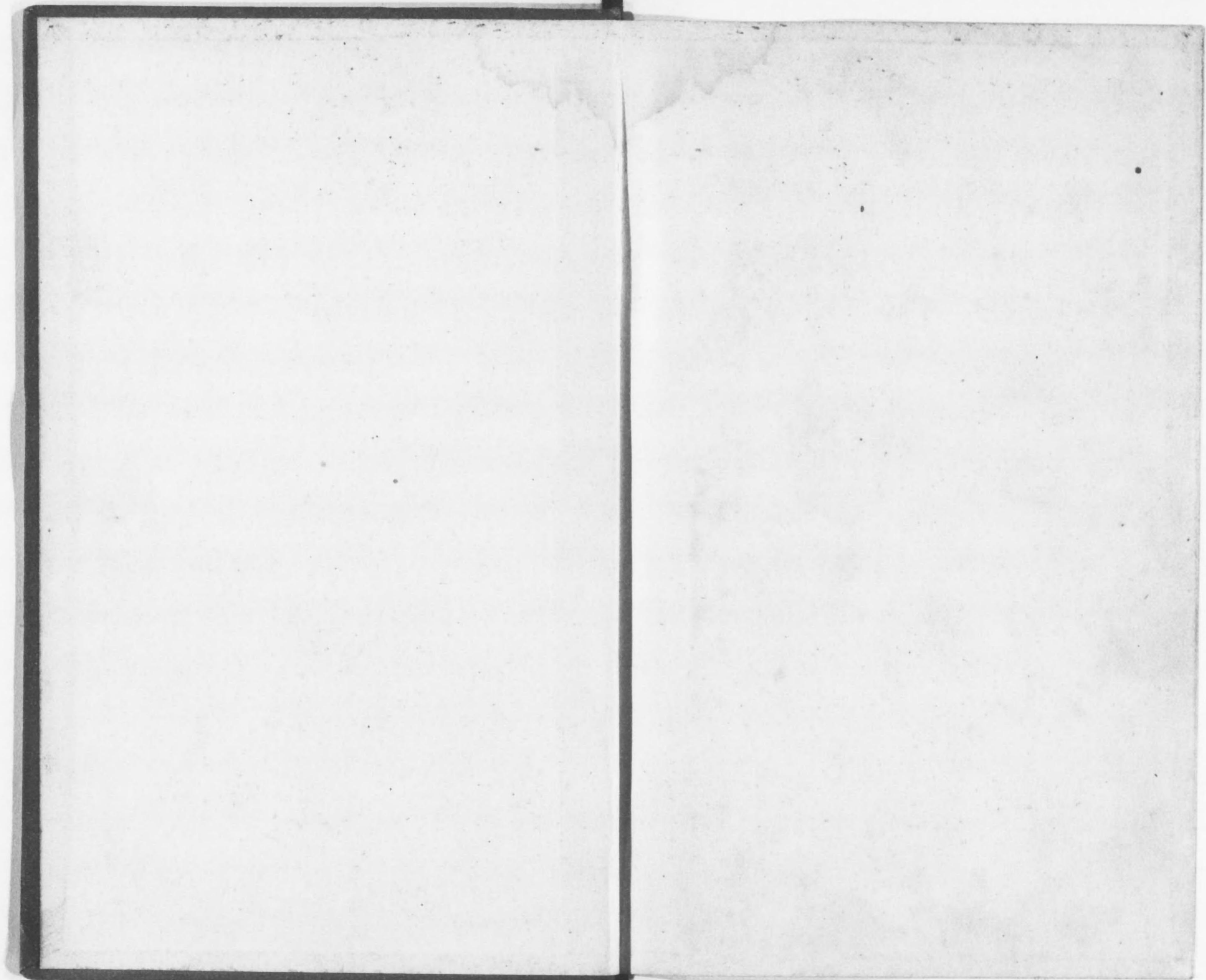


始



FIRST STEP  
TO  
ENGLISH  
COMPOSITION



FIRST STEPS TO  
ENGLISH COMPOSITION

英 作 文 入 門

「一年の英語」主筆

吉田幾次郎著



THE KENKYUSHA

## まへがき

**始**めて英作文を習ふ方の手引にも本書を書いた。出来るだけやさしく、わかり易く書いたつもりである。若し六づかしいと思ふところ、わかり悪いと思ふ所があつたら、幾度もくりかへし、くりかへし、考へながら読んで見て下さい。それでも解らねばしるしを付けておいて、別の時に、其處をまた読んで見て下さい。「讀書百遍意おのづから通す」と古人も言つてゐる。くりかへし読む中には、きつと解つて來るころをお請合する。たゞし、それでも解らないといふ頑固なやつがあつたら、その個所を明記して、研究社内「一年の英語」編集部あてに質問して下さい。直接または「一年の英語」誌上に、お解りになるまで、幾度でも解答して差上げよう。

本書には、練習例題が五百餘も出てゐる。これは必ず讀者自らがよく考へて、自信のある答案を作つて見て下さい。その上でなくては、本書の答解を見てはいけません。自分では考へもしないで、始めから答解を見るやうな人……は、なからうが、若しあつたら……そんな人は、幾度本書をお読みなさつても無効、いつまでも英作文はからだめの人と覺悟して下さい。

76W10511



以上申した通りにして、本書を読み終り、本書の例題を全部やつた人は、中學一年程度の英作文は優等で及第した人と言つて、少しも差支ない。引續き發行する豫定の『英作文の本』で、中學二年以上の勉強をして下さい。また『英文法入門』や『英文法の本』をも読んで、英作文の基本となるべき智識を養つて下さい。また研究社から發行する『一年の英語』『二年の英語』『三年の英語』『上級英語』『英語研究』の五大英語雑誌を順次愛讀して、英語の完全なる實力を、豊かなる趣味を養成して下さい。

以上をこの『英作文入門』のまへがきとします。

昭和三年五月

著者しるす。

目次

まへがき ... .. 目次の前  
音標文字略説 ... .. 目次の次

1. 私は少年です。僕は文雄であります...	頁 1
2. 君はよい子だ。あれは山田君だ ... ..	10
3. 僕等は男の子で、彼等は女の子だ。これは私のバットと君のボールです ... ..	19
4. 僕には眼が二つと、耳が二つとある。あの男の子は肩にカバンをかけてある ... ..	28
5. 僕の父は大層旨く英語を話すことができる。私共は充分に勉強せんければなりません ... ..	40
6. あれは井上君ですか。井上君ぢやありません ... ..	51
7. 誰ですか。本は何處にあるか。あの本箱の中にある ... ..	65
8. 戸口に郵便屋さんがゐます。丘の上に何かがあるか。あそこに櫻の木が數本ある ... ..	78
9. 君は兄弟が幾人あるか。三人あります。姉妹はありません。君は手に何を持つてゐますか。新しいラケットを持つてゐます ... ..	88

	頁
10. 一日に幾時間あるか。二十四時間ある。三月、四月、五月は春の月である …… …… ……	99
11. 私共は毎日學校に行きます。君は學校に行きますか。私は日曜日には學校に行きません …… …… ……	110
12. 弟は朝は非常に早く起きる。彼は怠けてゐることを好まない。君の弟は充分に勉強しますか。… …… ……	121
13. 君は野球ができるか。できない。僕達は散歩に出てもよいか。いけない。これは直ぐ書かねはならぬか。直ぐ書くに及はない… …… ……	132
14. ひきたしから筆函を出しなさい。あけつはなしにしてはいけません… …… ……	143
15. 私はあの男が好きで、あの男はまた私が好きです。あれは僕の寫眞機ではない。兄の寫眞機です …… ……	152
16. あの新しいラケットは君のですか。僕のでありません。誰のですか。長井君のです。僕のはそんな新しいのではありません。餘程古いのです …… ……	164
17. 鶴の頸は長い。この河の名は隅田といふ。彼は盲人です。あの男はめくらです… …… ……	175
18. 今は幾時ですか。丁度八時です。今日は何曜日ですか。水曜日です。今日は幾日ですか。三月三日です。今年は何年ですか。昭和三年です …… ……	186
19. 天氣は如何ですか。非常な好天氣です。東京から京都ま	

	頁
では幾らありますか。三百六十餘哩あります …… ……	203
20. 君は幾歳ですか。十五歳です。身長は幾らあるか。五尺三寸あります。體量は幾らありますか。十六貫六百目あります …… ……	212
21. 實に大きな軍艦ですね。君は何といふ立派な體格たらう。	219
22. あの子は猿のやうた、猿のやうな子だ。あの子は猿のやうにすはしこい。筑波山は富士山程の高さか。いや、富士ほごに高くはない …… ……	232
23. 僕は君より脊が高い。君か、あの男か、どちらが年が下か。二人の中では彼が年下です …… ……	241
24. アジヤは六大洲の中で一番大きい。日本は世界で第一流の強國だ。ダイヤモンドはどんな他の石よりも堅い…	251
25. パナマミ林檎さ、君はどちらがお好きですか。バナナの方が好きです。私の兄は私共の中では一番多く本を読んでゐる。鐵は黄金よりも有用だ。あらゆる金屬中で一番有用だ… …… ……	264

## 音標文字略説

**本**書の脚註には、其頁に始めて出て来る英語の讀方と意味とを示してゐるが、讀方を示すためには、萬國發音學協會で定めた「音標文字」といふを使つてゐるから、その概略の説明を次にして置く。詳しくは近く發行する豫定の「英語の發音と綴字の本」に就き御承知を願ひたい。

### 父 音

父音をあらはす音標文字は、在來の英字と大部分は同じであるが、中には三つ四つ、英字でないものを使ふ。また同じ字でも、英字の讀方とはちがつたものをあらはすやうに使はれるものもある。

b (ブ)	d (ド)	f (フ)	h (ハ)	k (ク)
l (ル)	m (ム)	n (ン)	p (プ)	r (ル)
s (ス)	t (ト)	v (ヴ)	w (ウ)	z (ズ)

以上の字は、英字の讀方と全く同じである。たゞ、英字では r が「ア」s が「ズ」n が「ン」を讀まれることもあるが、音標文字として使はれる場合には、一切そんな讀方をされない。音標文字は「一字一音」主義といつて、一つの字が、二種以上の讀方をされることは絶対にないのである。

j (イ)



英字の j は「チ」に読まれるが、音標文字では、英字の y の読方、即ち「イ」に i を読む。そして「チ」の讀方は、次に示す通りに、別の字を使ひ、また y の字は、音標文字としては全く使はない。

音標文字として英語の發音をあらはす際に使はれない英字は

c g q x y

の五字である

たゞし g の字は「グ」の音をあらはす場合に使ふ人もあるが、普通はその場合 g を使はないで別の g を使ふ。

英字では ch(チ) だの sh(シ また ジ), ph=gh(フ), ng(ン) th(ス また ズ), wh(ホ) のやうに、二字を並べてあらはす音を音標文字では、「一音一字」主義をいつて、一つの音は必ず一字であらはすといふ趣意から、次のやうな英字にない特別の字一字を使つて、これをあらはすここに定めてある。

ʃ(=sh シ) ʒ(=sh ジ) ɲ(=ng ン) θ(=th ス)  
ð(=th ズ) ɹ(=wh ホ)

たゞし、ch(チ)の音は、實は t(ト)に ʃ(シ)を續けさまに一音のやうにいふもの、また j(チ)も d(ド)に ʒ(ジ)を續けさまに一音のやうにいふものであるから、音標文字でも二字並べて

tʃ(=ch チ) dʒ(=j チ)

とする。また wh(ホ)は米人の發音で、英人はこれを w 一字の讀方(hを消字にして)と同じにいふ。従つて、上記の [ɹ] は米人の發音をあらはす場合にだけ必要で、英人の發音をあらはす場合には全然不要である。

## 母 音

英字の母音字は aeiou(時に y 或 w 或 r)に、僅にこれだけしかない。そしてこれで二十二三種もあるちがつた母音をあらはすここになつてゐる。即ち a の字は次の通り十種のちがつた讀方をする。

hat の a (エあ)	gate の a (えイ)
ask の a (あ)	car の ar (あ  )
wash の a (お)	water の a (お  )
care の ar (えア)	away の a (ア)
always の a (イ)	sea の a (消字)

また e の字も九種のちがつた讀方をする。

hen の e (え)	see の e (い  )
there の er (えア)	her の er (あ  )
they の e (えイ)	before の e (イ)
few の ew (ゆ  )	take の e (消字)
moment の e (ア)	

i の字は、次の七つの變つた讀方をする。

it の i (い)	ice の i (あい)
police の i (い)	girl の ir (あ)
violin の i (アイ)	carriage の i (イ)
their の i (消字)	

o の字は、次の通り十六種の讀方がある。

dog の o (お)	coat の o (おう)
horse の or (お)	world の or (あ)
son の o (あ)	wolf の o (う)
move の o (う)	book の oo (う)
moon の oo (う)	boy の oy (お)
oil の oi (お)	cow の ow (あ)
out の ou (あ)	obey の o (オ)
motor の or (ア)	content の o (ア)

u の字は、次の八種の讀方をする。

sun の u (あ)	use の u (ゆ)
hurt の ur (あ)	put の u (う)
fruit の u (う)	July の u (ユ)
famous の u (ア)	bouy の u (消字)

r の字、w の字も、他の母音字と並んで、ar, er, ir, or, ur, aw, ew, ow などある時は母音字で、r は「ア」に読まれる場合と消字の場合とあり、また w も「ウ」に読まれる場合と、消字の場合とある。

y の字も同様で、母音字として使はれて、i と同じく「い」「あい」に読まれたり、また ay, ey, oy などなつて、「イ」に読まれたり、消字になつたりする。詳しく言ふと大變長くなるから、「發音と綴字の本」に譲ることにする。

さて、英語の母音字は、斯んな風に、一つの字にいろいろの讀方があるが、一方から見ると、同じ母音をあらはすに、ちがつた字を使ふこと、言ひ替へれば、別の字であつて、同じ讀方であるものが、次の通りに澤山あるのである。

gate の a と they の e とは、同じく「えい」  
 care の ar と there の er とは、同じく「えア」  
 water の a と horse の or とは、同じく「お」  
 wash の a と dog の o とは、同じく「お」  
 see の e と police の i とは、同じく「い」  
 her の er と、girl の ir と、world の or と、hurt の ur とは、同じく「あ」  
 son の o と、sun の u とは、同じく「あ」  
 wolf の o と、book の oo と、put の u とは、同じく「う」  
 move の o と、moon の oo と、fruit の u とは、同じく「う」  
 oil の oi と、boy と oy とは、同じく「お」  
 out の ou と、cow の ow とは、同じく「あ」  
 few の ew と、use の u とは、同じく「ゆ」

この外に、上に片假名ばかりで示してある軽くいふ母音(曖昧音)は、aeiouとも、これも殆ど皆同じに言へばよいやうな場合が澤山ある。

斯んな次第で、英語の母音字の讀方は、一語一語に就て知らなくてはならぬといふまでに、非常に不規律で、六づかしいのである。

所が、音標文字の母音字はこいふこ、これは前に述べた「一音一字」「一字一音」主義に出来てゐて、同じ音をあらはす字が二つ以上あつたり、また同じ字が場合によつて、ちがつた讀方をするやうのこは、斷じてないこになつてゐる。

そして、音標文字の母音字の中には、勿論普通の英字も使ひはするが、其讀方は全く在來の英字の讀方こちがつてゐるに注意せんければならぬ。

次に( )の中に示してあるのが、以前から行はれてゐる Webster 式の發音符號をつけたものである。

æ (ǣ)	エあ	hat の a
e (ĕ)	え	hen の e
i (ī=ÿ)	い	it の i
u (ū=ū=ōō)	う	put, wolf, book の u, o, oo
ɑ (ǎ)	あ*	ask の a
ɔ (ō=ǫ)	お	dog, wash の o, a

ʌ (ū=ò)	あ	sun, son の u, o
ə (ǎ の類)	ア	away の a の類

以上は短く讀む母音、即ち「短母音」であるが、この中ɑ(あ)は米國人だけの發音で、英國人はいつでも長く「あー」こいふから、英國音をあらはすには、ɑ は不用であるわけだ。またæ以下ʌまでは、總て強く短くいふもの、即ち「強音」であるが、最後のəは軽く曖昧にいふので、「ア」「エ」こちらこもつかぬぐらゐるにほんやりいふのである。

i: (ē=ī)	いー	see, police の e, i
u: (ū=ū=ōō)	うー	fruit, move, moon の u, o, oo
ɑ: (ǎ)	あー	car の ar
ɔ: (ōr=ǫ)	おー	horse, water の or, a
ɛ: (ēr=ī=ōr=ūr)	あー	her, girl, world, hurt の er, ir, or, ur

以上は長く引いていふ母音、即ち「長母音」で、音標文字では、上記のやうに[:]符を、これに相當する短母音の次につけて、これをあらはすこに定めてある。

ei (ā=ē)	えい	gate, they の a, e
ou (ō)	おう	coat の o
ai (ī=ÿ)	あい	ice, by の i, y
au (ou=ow)	あう	out, cow の ou, ow
oi (oi=oy)	おい	oil, boy の oi, oy
ie (ēr)	いア	here の er

ɛə (âr=êr)	えア	care, there の ar, er
ɔə (ôr)	おア	door の or
uə (ōor)	うア	poor の oor

以上は二重母音をいつて、別の母音が二つ並んでゐるものであるから、音標文字では上記のやうに、その各の母音をあらはす字を二つ並べて、これを示すことになつてゐる。

二重母音は、いつでも前の母音を強く、これに軽く弱く後の母音を附けていふのである。

ɔə (おア) は、今ではこれを ɔ: (お |) を讀んでゐる人が多い。例へば door, floor, four を dɔə (ミア) flɔə (フロア) fɔə (フおア) をいふ人よりは、dɔ: (ミ |) flɔ: (フロ |) fɔ: (フお |) をいふ人の方が多いのである。

英語の母音、及びこれをあらはす音標文字は、これだけである。

## 假名

尙本書に音標文字を並び使つてゐる日本の假名<sup>かな</sup>使ひ方につき一言説明を試みよう。

英語の發音と日本語の發音とは、似たものも多いが、根本的にちがつてゐるものも少なくない。然るにそれを日本の假名で書きあらはさうといふことは、實は無謀をいつてもよい位で、誠に不完全千萬なのは勿論である。たゞ似より

の音をこれで示すといふまでなのである。

本書には、片假名と平假名とを併用してゐるが、

平假名は、強く重く讀んでいただきたい

片假名は、軽く短く讀んでいただきたい。

片假名は、實はそれから總て母音の部分を除いたものが、英語の讀方と思つていただければよい。「フ」は「フ」から「ウ」を除いたもの、「ブ」も「ブ」から「ウ」を除いたものといつた風に。

「エあ」のやうに、二字の上に「へ」を附けてあるのは、その二字を別々に讀むのでなく、二つを續けさまに一音として讀んでいただきたいのである。「フあ」「ウえ」なども皆さうである。

尙日本の假名と、いちじるしいちがひのあるものを、次に擧げて注意を促すこと、しよう。

[f フ] 日本の「フ」は上下の唇で、丸い穴を作つて、そこからいきを出すこ出る音であるが、英語の [f] は、下唇の上に軽く上の前歯をあて、そのまゝ「フ」をいきを出すこ出る音で、實は「フ」は全くちがつたものである。日本の「フ」の音は、英語にはない。

[v ヴ] これは、上記の f の時と同じに、下唇の上に上の前歯をあて、そのまゝ「ブ」を聲を出すこ出る音で、f のにぎりなのである。[b ブ] は兩唇を合はして、急にそれを

離して聲を出すこ出る音で、[v ヴ]とは全く別物であるから注意せねばならぬ。

[n ン] これは、舌をこがらして、上歯の裏にあて、そのまゝいふ「ン」で、舌を歯から離して言つてはいけない。

[ŋ ン<sup>g</sup>] これは、舌を何處にもあてないで、口をあけていふ「ン」で、こゝさらに「グ」をつけるのでない。「ン<sup>g</sup>」を書くのは、上記の [n ン] と區別するためで、實はやはり「ン」だけにして、「グ」なきは附けない方が正しいのである。既に雑誌「一年の英語」等には、[ŋ ン] として示してある。

[l ル] これも、[n ン] と同じに、舌を上歯の裏にあて、そのまゝいふ「ル」である。舌を離すこ

[r ル] に似たものになつてしまふ。[r ル] は日本の「ル」こよく似てゐるが、日本の「ラリルレロ」は、舌のさきが、かすかながらも、口の屋根にふれるが、[r ル] は、今にもふれるやうで、ふれさせないでいふのだから、その點が少しながらちがつてゐる。

[h ハ] これは實は假名では示されない音で、口をあけて、舌を何處にもあてないで、胸の底からいきを「ハ」こはき出す時のおこ(耳に實は聞えぬ)が、この h のあらはす音なのである。耳に聞えぬ音だから、假名では書けぬが、假りに「ハ」であらはすこゝしたのである。

この [h] をいつて、續けさまに「ア」をいふこ「は」こなり、「イ」をいふこ「ひ」こなり、「エ」「オ」をいふこ「へ」「ほ」こなるのである。つまり「はひへほ」から「あいえお」を除いた残りが、この h の示す音なのである。

たゞし「ふ」から「う」を除いても h にはならぬ。その場合残るものは、英語には使はない父音、即ち日本語にのみ使ふ「フ」(f ではない)であるのである。詳しいこは「發音綴字の本」を参照して下さい。

[ʃ シ] と [ʒ ジ] は、日本の「シュ」「ジュ」こいふ時の口つきをして、「シ」「ジ」こいふのである。日本流の「シ」「ジ」ではない。

父音に就き注意するこは、この位に止めて、これから母音に就いても簡単に話しておかう。

[æ エあ] これは日本語に全くない母音だが、キ、なきいふ時に、幾らか似よりの音が出る。「エ」こ「あ」こを續けさまに、はやく一音にいふこ、大體似た音が出る。練習したらさう言ひにくくもない筈だ。

[ʌ あ] と [ɑ あ] 假名で書けば同じだが、[ʌ] の方は、口をこさらに開かないでいふから、「オ」のやうにも聞える「あ」である。そして [ɑ] の方は、大體日本の「あ」こ同じもの。尤も前にも言つた通り、英國人は、これをいつでも [ɑ: あ:] と長くいつて、短く [ɑ あ] こいふこはないので

ある。[a あ] と短いふのは米國人の特有である。

[a: あ:] と [a: あ:] この二つの區別も、上の [A] と [a] の區別と同じである。即ち [A] を長く引つばつたものが [a:] で、[a] を長く引くばつたものが [a:] である。[a:] は、口をこゝさらに開かないでいふから、「お」も聞えるもので、[a:] は日本の「あ」を長く引つばつたものゝ、ほぼ同じである。

[ə] これは軽く短く「ア」といふので、實は「ア」「エ」どちらでも、出たこ勝負に言へばよい。

[o: お:] と [ou おウ] 同じ「お」でも、[o:] の方は、日本の「お」をいふ時よりは、すつと大きく口を開いて、口に卵を一つ入れてゐる時のやうな心持でいふ。[o] はその短いもので、それを長く引つばつたのが [o:] である。所が [ou] の「お」は、そんなに大きく口を開かないで、先づ日本の「お」と同じ位でいふ「お」でそれを言ひながら、次第に唇を丸く小さくつほめて「ウ」といふのである。「おウ」「おウ」。

[ei えイ] と [eə えア] これも假名では同じ「え」であるが、[ei] の [e] は大體日本の「え」と同じで、[eə] の [e] は、[e] をいふ時よりは、すつと舌を平べつたくしていふ。日本流に似た「え」と、舌を奥まで、平べつたくしていふ「え」が、[e] と [e] の區別だと覚えてゐてもらひたい。

母音に就ての主な注意は、先づこれだけである。以上に挙げぬ母音は大體日本の假名と同じに言へばよいと思へばよい。

### アクセント

一語中に、母音が二つ、または二つ以上ある場合、その中のどれか一つを、他の母音よりは強くはつきり言ふ、これをアクセント(揚音)といふのである。

日本語にでもアクセントはある。たとへば同じ「アメ」と書いても強いふ方がちがふと「雨」と「飴」(「あめ」と「アメ」)と區別されるし、「ハナ」も「はナ」といふと、「ハナ」といふとで、「花」と「鼻」を區別される。片假名と平假名を本書にまぜて使つてある中の、平假名の部分は、言はばアクセントの部分で、片假名の部分は、さうでない部分なのだ。

英字にこのアクセントを示すには、そのアクセントの母音、即ち強くはつきり言ふ母音字の上に「'」符を附けて

mórning évening fáther móther

のやうにする。だからこの符號を見たら、その母音(母音の前に父音があつたら、その二つで出来る音)を強くはつきり、上例で言へば、mo, e, fa, mo を、他の ning, vening, ther よりも、すつと強く、はつきり讀むものを知つていただきたい。

發音に就て、まだまだお話したいところがあるが、幾度も述べた通り、それ等は總て「發音綴字の本」に譲つて、こゝには、これで止めることにする。これだけが確かりお解りなされば、次頁以下の脚註に出來てゐる音標文字は、正確にお讀めなされる筈である。

# 英作文入門

1.

私は少年です



英 作文を研究する第一歩として、前頁に出てゐる  
「私は少年です」

こいふ意味を英語ではさういふか、斯んな簡単なものから始めて見ようと思ふ。先づ

私は こいふこゝは、英語では「あい」といつて I を書く。御存知の通り I は i の大字であるが、「私は」の意をあらはす時には、いつでも大字の I を使つて、決して小字の i は使はないこゝを覚えておいてもらひたい。

少年 は「ほい」といつて、boy を書く。また「らど」もいふが、これは lad を書く。どちらを使つてもよい。

です は「アム」といつて、am を書く。さ、これで入用の英語はそつくり解つた。

私は	少年	です
I	boy	am

日本語と英語の語順 ところで、こゝに注意していただかねばならぬこゝがある。それは英語と日本語とは、語の順序が同じでない場合が往々あるこゝである。いや殆ど全部順序がちがふといつてもよい位である。この場合でもその通りで、日本語の順序のまゝに

I boy am

I [ai あい] 私は。 boy [boi ぼい] = lad [læd らど] 少年、男の子。 am [強く読む時は æm エあム、ただし普通は軽く əm アム].....です。

こしたのでは英語にならぬ。英語では斯んな場合には、先づ「私は」といつたら、次に「です」といひ、それから「少年」といふ。即ち「私は です 少年」

I am boy

こせんければならぬ。これは「私は.....です」の場合だけでない。總て「~は.....です」の場合には

~は です .....

「~はです.....」 こいふ順に置くのが英語の定めであるから、よく覚えておいていただかねばならぬ。

「一つの」の意の a ところで、これではまだ完全な英語とは言はれぬ。それは boy や lad のやうなものは、一人、二人と、その「数」を数へることが出来る。そんな数を数へることのできる人や物をあらはす語は、その数が一つである場合には、いつでも a こいふ語をこれに添えて、a boy, a lad のやうに言はんければならぬ。これで「一人の少年」といふ意である。日本語では、わざわざ「一人の」と言はないが、英語ではこれを省けばまちがひになるのだから注意せんければならぬ。

こんな次第で、本文は

I am a boy

a [強く読む時は ei えい、ただし普通は軽く短く əアと読む] 「一つの」意。



でよいわけだが、まだもう一ついけないところがある。それは、普通の英文には、最終に「.」をつけねばならぬ。これは「終止符」といふ符號で、これでこの文は「終り」であるといふ意をあらはすものである。即ち

I am a boy.

これでやつて「私は少年です」の意をあらはす文は出来たのである。

暗記すべき規則 (1) I はいつでも大文字で書く。  
(2) 日本語で「～は……です」といふを、英語では「～はです……」といふ。

(3) 数の数へられるものを示す語には、それが一つである時には、必ず a といふ語をその語の前に附ける。

(4) 文の最終には「終止符」即ち「.」を附ける。

この四つの規則は、よく覚えておいていたゞかねばならぬ。

英文の読み方 終止符は書く時にだけ入用なもので、読む時には別段何とも読むものではない。たゞしこの符號のある時には こまばじり を少しおこして

あ イ ア ム …… ア ほ イ

こいつた風に読む。「……」の所では、少しいきをぬくのである。總て英文は、意味によつて、二語、三語を續けて讀まねばならぬ所もあり、また少し息を切つてからでなくば、次を

讀んではならぬ箇所もある。「～は…です」の文は「～am」と讀み、息をぬいてから「a…」といつて、言葉尻を下けるのである。このこまもよく覚えておいて願はねばならぬ。

### 例 題

次の意味を英文に作つて下さい。

- (1) 私は少女です。
- (2) 私は(男の)おこなです。
- (3) 私は(女の)おこなです。
- (4) 私は學生です。
- (5) 私は軍人です。

如何です、出来ましたか。勿論出来たでせうね。次の通り出来たらよろしいのです。

- (1) I am a girl.
- (2) I am a man.
- (3) I am a woman.
- (4) I am a student.
- (5) I am a soldier.

a を忘れなかつたでせうね、最終に終止符を忘れはしな

- (1) 少女 girl [gɔ:l がール] (2) (男の)おこな man [mæn まん] (3) (女の)おこな [wɔ:mən ウラマン] (4) 學生 student [stju:dənt ストュダント] (5) 軍人 soldier [sɔ:ldɪə ソウルヂャ]

かつたでせうね。では、読んで御覧なさい。続ける所、切る所、言葉尻を下げる所などに注意して下さい。

- (1) あイアム……アがール
- (2) あイアム……アマシ
- (3) あイアム……アウ<sup>ウ</sup>マン
- (4) あイアム……アス<sup>ス</sup>ィダント
- (5) あイアム……アソウルチャ<sup>ヤ</sup>

[注意] 本書に平假名と片假名とをまぜて英語の讀方を示してある。平假名の部分は強く明瞭に、これに反して片假名の部分は軽くほんやりと讀んでもらいたい。また「ウ<sup>ウ</sup>」のやうな所はその二つを一つに聞えるやうに續けさまに讀んでもひたい。また「……」の所では息をぬき「」の所では言葉尻を下けて讀んでもらひたいのである。

\* \* \*

## 僕は文雄であります

**今**度は此意味を英文に書く研究をやつて見よう。例により先づ入用の語句を調べよう。

僕は「私は」といふ時と同じに、やはり I でよい。日本語では自分のことを指す言葉に

私 僕 おれ 拙者 小生 吾輩  
 なぎ、いろいろあるが、英語には I 一つしかないのである。だから「私は」でも「僕は」でも「おれは」でも、何でも悉く I を使へばよいのである。同じわけで

であります は「です」と同じ am を使へばよい。日本語には

です であります でございます である だ  
 また文章語で

なり に候 御座候  
 なぎ、いろいろの言ひ方があるが、英語ではこの場合にも悉く同じ am を使へばよい。英語には日本語のやうに「口語體」「文章體」の區別はない。いつでも同じ語を使へばよいのである。

日本語なら、口でいふ時は「僕は文雄です」といふ  
言文一致を、文章で書けば「余は文雄なり」手紙では「小生は文雄に御座候」と書くやうの區別があるが、英語には一切そんな事がない。口でいふ通りを字で書けば、それが立派な文章であり、また手紙の文句でもある。同じわけで、手紙の文句そのまゝが、普通の文章でもあり、またこれをそのまゝ口で言へば、會話にもなるのである。このことはよく覚えておいていたゞかねばならぬ。

文雄 斯んな日本人の名は、そのまゝ、ローマ字で Fumio

ご書けばよい。たゞ注意すべきは

人の名は、いつでも最初の一字を大字で書くので  
人名の書方ある。小字ばかりで fumio ご書いてはいけない  
 のである。これもよく覚えておいていたゞかねばならぬ。

順序は、前項の I am a boy. と同じで「～は、です……」  
 とする。即ち

I am Fumio.

人名には、a boy の場合のやうな a を附けるには及ば  
 ない。たゞし「終止符」は必ず最後に忘れないやうに附けね  
 ばならぬ。

読む時には

あ IAM ..... フミオ

といつた風に、I am と續けて、そこでちよつと息を休め、  
 Fumio を「ミ」を強く、「オ」の所で言葉尻を下げる。

### 例 題

- (6) 私は武雄でございます。
- (7) おれは伊藤だ。
- (8) 拙者は井上であります。
- (9) わたくしお春よ。
- (10) 愚僧は日蓮でおぢやる。

出来たでせう。皆 I am です。人名は最初を大字で書  
 き、a は附けないのです。文の最後に「。」を忘れてはなり  
 ません。

(6) I am Takeo.

(7) I am Itō.

(8) I am Inoue.

(9) I am O-Haru.

(10) I am Nichiren.

読む時には、いつでも I am と續けて、ちよつと息を  
 休めてから次の語をいひ、その言葉尻を下げるのです。

## 2.

## 君はよい子だ



**例**により、入用の語句の研究から始めよう。

君は これは「ゆい」をいって you を書く。

よい子 「よい」は good で「子」は男の子なら boy 女の子なら girl たゞ「子」をいふだけでは、どちらを使つてよいか解らない。斯んな場合には、男女どちらにも通用する child を使つてもよい。所で「よい子」は一人二人を数へ

られるから、これに例の a を付けねばならぬが、これは child だけに附けて

good a child

をするか、それとも

a good child

を good child の前に附けるか、をいふに、斯んな a の位置 場合には、いつでも「説明する語+説明される語」の前に a を附ける。即ち a good child をいって、good a child を言はないのである。同じわけで

脊の高い男の子 = a tall boy

脊の低い女の子 = a short girl

肥つた男の人 = a fat man

瘦せた女の人 = a thin woman

を、いつでも a は最初に附けるのである。

だ これは「です」。をいふも同じだから、~~を~~を使へばよいわけだが……

「私は……です」は I am……

「君は……です」は you are……

am と are を、同じ「です」でも「君は」の時には am でなく、

you [ju:ゆい] 君は。good [gudぐと] 善き。child [tʃaɪldチャイルド] 子。tall [tɔ:lとール] 脊高き。short [ʃɔ:tショート] 脊の低き、短き。fat [fetフアット] 肥つた。thin [θinレン] 瘦せた、薄い。are [ɑ:ア]……です。

are さいふ別の語を使はねばならぬ定めになつてゐる。これは確かに覚えておいていたゞかねばならぬ。

語順は「私は……です」の場合と同じで、「君は」の次に「です」を置き、それから「よい子」を置く。

you are a good child.

いや、まだいけないところがある。それは

文の最初は必ず大字で書く

さいふ規則がある、従つて you の y を大字に改めて

You are a good child.

これで立派な英文は出来たのである。文の最初の  
文の最初 一字は必ず大字を使ふさいふ規則は、これも忘れてはならぬ大切な規則である。

### 例 題

- (11) あなたはよい(女の)子です。
- (12) 貴公は脊の高い(男の)子だ。
- (13) お身は肥つた女ぢや。
- (14) お前は悪い子だ。
- (15) 貴君は親切なお人であります。

出来たでせう。日本語で何さいふても、相手の人を指す

(14) 悪い bad [beəd ぼド]。 (15) 親切な kind [kaind かインド]。お人(男なら) man (女なら) woman。

場合には英語ではいつも you で、これに添ふ「です」「だ」「ぢや」などは、總て are です。

(11) You are a good girl.

(12) You are a tall boy.

(13) You are a fat woman.

(14) You are a bad child.

(15) You are a kind man.

讀方は

ゆーアール……アグッドガール

さいふの風に、You are を續けていひ、ちよつと息を休めてから、その次を全部續けて言つて、言葉尻を下けるのである。

\* \* \*

### あれは山田君だ

日本語では、人でも物でも、何を指す時にも、同じく「あれは」「それは」「これは」なさいふが、英語では

男の人を指して「あれは」「それは」「これは」さいふには he  
女の人を指して「あれは」「それは」「これは」さいふには she  
さいひ、

人でないもの、即ち鳥獸でも、魚貝でも、草木でも、また品

he [hi: ひ] 男の人を指す語。 she [ʃi: し] 女の人を指す語。

物でも、總て人間以外のものを指す時には

「あれは」も「それは」には **that**

「これは」には **this**

he, she, that, this よく區別して覚えておいて下さい。  
こいふ語を使ふのが定めである。he, she, that, this

もう一つ、覚えておいて願いたいのは同じ「だ」「です」

でも、英語では

I には **am**

You には **are**

其他には **is**

am, are, is こいふ語を使ふ定めになつてゐる。だから「あれは……です」「それは……です」「これは……です」

こいふ場合。

男ならば **he is.....**

女ならば **she is.....**

人以外の物ならば

「あれは……です」「それは……です」は **that is.....**

「これは……です」は **this is.....**

こ、いつでも「です」に **is** を使ふのである。さうして「私は……です」を I am..... として、先づ「私はです」こいつてか

**that** [ðæt ざト] 人以外の物を指して「あれは」「それは」 **this** [ðis じス] 人以外の物を指して「これは」 **is** [iz イズ].....です。

ら、「……」をその次に言ふこ同じやうに he is....., she is....., that is....., this is..... として、總て「あれはです……」の順にいふのが定めである。

さて、これだけの事を覚えておけば、標題の「あれは山田君だ」こいふこは、わけもなく言へる筈である。即ち先づ「あれは、だ」男を指すのだから **he** を使つて

he is.....

いや、文の最初は大字で書くのだから **he** の **h** を大字に改めて

He is.....

こして、次に「山田君」を置けばよい。

「山田」は人名だから、最初の一字を大字で書いて Yamada としてよい。「君」は Mr. として、日本語としては反對に「山田」の前に附ける。Mr. Yamada といった風に。

Mr. の書き方 Mr. は mister として略して書いたものである。いつでも大字で M を書き、最後に「.」を附ける。此場合の「.」は終止符ではなくて「略字符」である。即ち Mr. は略字であるこいふこを「.」に依つて示してゐるのである。

Mr. は「男」の人の苗字に附ける敬稱である。婦人(既婚)

Mr. [mister の略字、místr みるすト] 男の敬稱。Mrs. [missis の略字、míz みるすヅ] 既婚の女の敬稱。

の)には、この代りに Mrs. を使ふ、これも略字だから、略  
 字符の「.」を忘れてはならぬ。

敬稱の色々 未婚の婦人には Miss を使ふ。これは略字でない  
 から「.」は不用。また丁年未滿の男子には Mr. の  
 代りに Master といふ語を使つてもよい。これも略字でな  
 いから、「.」は不用。

注意すべきことは

(1) Mr. と Mrs. とは苗字にのみ附けて、名には附けては  
 ならぬが、Miss と Master とは、苗字にも、名にも、ごちら  
 にも附けてよい。だから

Mr. Taro (太郎君) だの Mrs. Harue (春江さん) だのとい  
 ふことは不可である。此場合には必ず Master Taro, Miss  
 Harue とせんければならぬ。たゞし Mr. Ito (伊藤君)、  
 Mrs. Ito (伊藤夫人)、Master Ito, Miss Ito は、これも差支な  
 いのである。

(2) 男は丁年以上には必ず Mr. を使ひ、未滿には Mr. と  
 Master と、ごちらを使つてもよい。たゞし女は年齢では區  
 別しないで、幾つになつても (たゞしお婆さんであつても)  
 結婚しない女には總て Miss を使ひ、一度結婚した人は (た  
 ゞし後家さんでも) Mrs. を使ふ。

Miss [mis みス] 未婚の婦人の敬稱。Master [má:stə ま | スタ] 未丁年の  
 男の敬稱、この略字にも Mr. を使つてよい。

研究が大變横道にそれたが、大切なことだから、よく覺  
 えておいていたゞかねばならぬ。さて、標題の「あれは山田  
 君だ」は……、解るでせう。

He is Mr. Yamada.

これでよいのです。文の最初と、人名の最初と、それから  
 Mr. とを大字で書くこと。Mr. と文の最後に「.」を附ける  
 こと。同じ「.」でも「略字符」と「終止符」と、その使ひ道  
 がちがつてゐること。斯んなことをよく覚えておいていた  
 ゞかねばならぬ。

### 例 題

- (16) あれは太郎君だ。
- (17) これは花子嬢です。
- (18) それは井上君です。
- (19) かれは久保夫人です。
- (20) あれは犬であります。
- (21) それは猫でございます。
- (22) これは馬です。

同じ「あれは」「それは」「これは」でも、he, she, that, this  
 を混同しないやうに注意せねばならぬ。

(20) 犬 dog [dɔg ㄉㄛˊ ㄍ], (21) 猫 cat [kæt ㄎㄞˊ ㄊ], (22) 馬 horse [hɔ:s  
 ㄏㄠˊ ㄙ],

- (16) He is Master Taro.  
 (17) She is Miss Haruko.  
 (18) He is Mr. Inoue.  
 (19) She is Mrs. Kubo.  
 (20) That is a dog.  
 (21) That is a cat.  
 (22) This is a horse.

人名には不用だが、dog, cat, horse には、a を附けることを忘れてはならぬ。



## 3.

## 僕等は男の子で、彼等は女の子だ



**英**語には單數と複數の區別がやかましい。即ち數一つのものをいふに使ふ語と、二つまたは二つ以上をいふに使ふ語の形がちがつてゐて、その使ひ方を誤つてはならぬことになつてゐるのである。

僕等は 自分一人を指して「僕は」「私は」は I であるが、自分と自分の仲間を總稱して「僕等は」「私共は」なごいふ



時には、別の語の we を使はねばならぬ。同じわけで

彼等は は they といふ。he の複数、即ち男ばかり二人以上を指す場合にも、また she の複数、即ち女ばかり二人以上を指す場合にも、或は he と she とを同時に、男女二人以上を指す場合にも、これにでも同じ they を使ふのである。

男の子 これも一人ならば boy で、それに a を付けて、a boy といふが、二人以上の時は a は附けないで、boy の語尾に s を附けた形、即ち boys を使ふ。a は「一つの」の意だから、二人以上の場合には、これを付けてはいけないことは言ふまでもない。二人でも三人でも、また十人、百人、幾人ゐても、一人でない場合は、總て同じくこの boys を使ふ。同じわけで

女の子 これも一人なら a girl だが、二人以上の場合には、a は附けないで、girl の語尾に s を附けた形、即ち girls を使ふ。

「です」の で……です これは「です、それから……です」色々な いふも同じこと。ところで、この「です」の英語がまた六づかしい。一つのものを指していふ場合には、前

we [wi: うえい] 我等は (I の複数)。 they [ðei ぜい] 彼等は (he, she 及び it の複数)。 boys [boiz ぼイズ] 男の子等 (boy の複数)。 girls [gɜ:lz がいルズ] 女の子等 (girl の複数)。

項に言つたやうに

I には am

you には are

其他には is

を使ふきまりであるが、二つまたはそれ以上のものを指していふ場合には、

總てに are

を使ふのである。即ち

私等は……です we are……

君等は……です you are……

彼等は……です they are……

こいつでも are を使ふのである。

申し漏したが you といふ語は、単数も複数も同形、即ち一人を指して「君は」「あなたは」こいふ場合にも、また二人以上を指して「君等は」「あなた方は」こいふ場合にも、ごちらにも同じ you を使ひ、それに伴ふ「です」には、ごちらにも are を使ふのである。

そして これは and といふ。

さ、これで入用の語句は全部解つた。語順は例の通り、「～はです……」これを二つ and でつなぐのである。

and [一語を強く言ふ時はænd エアンド。普通は軽くænd アンド又はen アン]そして、～と～と。

We are boys and they are girls.

これで立派に出来た。「～で……です」は、斯んな風に「～ですそして……です」をすればよいことを覚えておいて下さい。

### 例 題

- (23) 僕等は太郎と次郎です。  
 (24) 君達は勤勉な少年なり。  
 (25) 彼等は怠惰な少女であります。  
 (26) 君は少年で彼は少女です。

単数と複数この用法を誤らぬやうに注意せねばならぬ。

(23) We are Tarō and Jirō.

日本語では「～と……と」をいふが、英語では「～and……」を「と」に當る and を一つだけしか使はぬに注意。

- (24) You are diligent boys.  
 (25) They are idle girls.  
 (26) You are a boy and she is a girl.

単数には a を付け、複数にはこれを付けぬに注意。

\* \* \*

(23) 勤勉な diligent [dɪlɪdʒənt デリヂャント]、(24) 怠惰な idle [áidl あイドル]

### これは私のバットと君のボールとです

日本語では、一つを指しても「これは」二つ以上を指しても、同じく「これは」をいふ(よく「これ等は」をいふ)人があつたが、コレラやチブスは御免を蒙りたいものだ)が、英語では區別して一つを指す時は this で、二つ以上を指す時には these をいふ。同じわけで「それは」「あれは」も、一つの時は that で、二つ以上の時は those をいふ。つまり

this の複数が these

that の複数が those

なのである。

それから this や that に附く「です」は is であるが「複数に附く「です」には總て are を使ふ」といふ前項に述べた規則に従ひ these や those には必ず are の方を使はねばならぬ。

即ち同じ「これは……です」でも

一つを指す時は This is……

二つ以上の時は These are……

であり、「それは……です」「あれは……です」でも

these [ði:z デイズ] これは (this の複数)、those [ðo:z ゴウズ] それは、あれは (that の複数)。

一つを指す時は That is.....

二つ以上の時は Those are.....

であることを覚えておかねばならぬ。

私のバット 「私は」は I だが、「私の」の場合には I でなく、別の my を用いる。バットは英語でも同じに bat を用いる。いや、これは英語をそのまま(発音を日本流に訛つて)日本語にしたもの、即ち「歸化語」の一つなのだ。

さて、たゞ「バット」を指す場合にはこれは、<sup>a の不用な場合</sup> 一本、二本を数へられるから a を付けて a bat を用いる。所がこれに「～の」を説明する語が附くと、a は不用で「僕のバット」は、my bat を用いる。a my bat だの my a bat だの、a を附けないのである。

君のボール 「君は」は you だが、「君の」は your を用いる。「ボール」も歸化語の一つで、英語でも同じにいつて ball を書く。これも「ボール」だけなら a を付けて a ball だが、your が附くと a は不用 your ball でよい。

～と～ これは前項にあつた通りに、～and～である。日本語のやうに、「と」を二つ使はないに注意。

\* 日本語では、物に応じて「一本のバット」「一疋の犬」「一羽の鳥」「一人の男の子」などいふが、英語にはそんな「本」「疋」などに相当する語はなく、總て a bat, a dog, a bird, a boy と a を用いる。

my [mai まい] 私の。 bat [bat ばと] バット。 your [ju: よー] 又は juo [yo ヨー] 君の。 ball [bo:l ぼーる] 球、ボール。

さ、これで語句の研究は全部終つた。語順は例の通り。

These are my bat and your ball.

または相手を尊重するために、「君のボール」の方を前に、「僕のバット」の方を後にして、

These are your ball and my bat.

とする。英語では斯んな風に、自分は一番最後に、相手は一番最初に、たゞ日本語ではその順序を無視して

「私と君と」を言つても、I and you とは言はない。I and you の位置で you and I をいひ、「彼男と君と」を言つても you and he をいつた風に、you の方を前に、また「私と彼女と」を言つても she and I を自分の方を後に言ふがきまりになつてゐる。このこともよく覚えておいて下さい。

「私は」と「私の」をいつた風に「～は」と「～の」の區別は全部御存知でせうね。左様です、次の表の通りです。

私 は I	君 は } you	彼男は he 彼女は she
私 の my	君等は } you	彼男の his 彼女の her
私等は we	君 の } your	彼等は they
私等の our	君等の } your	彼等の their

our [auə あう] 私等の (my の複数)。 his [hiz ひズ] 彼男の。 her [hə: は] 彼女の。 their [ðeə ゼア] 彼等の (his や her 及びその混じりものの複数)。

## 例 題

- (27) あれは私の姉と妹です。  
 (28) あれは僕等の學校です。  
 (29) 彼等は君達の兩親です。  
 (30) これはあの女の日傘で、あれはあの男のステッキです。  
 (31) これは私の鉛筆と彼男のナイフです。  
 (32) あれは彼女の万年筆と君のエバシャープです。  
 まちがへないやうに、よく考へて作つて下さらなくてはならぬ。「～は」と「～の」單數と複數と……、うかうかする  
 とまちがひますぞ。

(27) They are my sisters.

英語では「姉」も「妹」も同じく sister といふ。従つて「姉と妹」を二人ならば、その複數形、即ち sisters を使へばよいのである。尤も是非區別して言ふ必要のある場合には「姉」は elder sister といひ、妹は younger sister といひ、「姉と妹」は elder sister and younger sister といふ……併しこれは特別の場合だけで、普通は前に言つた通りに、單に sisters でよい。

(27) 姉と妹 sisters [sɪstəz サイスタズ]。 elder [ˈɛldə エルダ] (自分より) 年上の。 younger [ˈjʌŋɡə ヤング] 年下の。

同じわけで「兄」も「弟」も brother といひ、「兄と弟」は brothers といふ。特に區別する必要のある時は「兄」は elder brother で、「弟」は younger brother といふ。

(28) That is our school.

(29) They are your parents.

同じ「あれは」でも、學校は that で、兩親は they……區別せねばならぬに注意。

parent は「親」の意で、その語尾に s を附けた複數形は「兩親」の意。「父」は father, 「母」は mother といふことは御存知の通り。

(30) This is her parasol and that is his cane.

(31) These are his knife and my pencil.

(32) Those are your ever-sharp pencil and her fountain pen.

「私の……」は最後に、「君の……」は最初におくことに注意。

brother [brʌðə ブラザ] 兄(また弟)。 (28) 學校 school [sku:l スクール]。 (29) 兩親 parents [ˈpeərənts ペアランツ]。 (30) 日傘 parasol [ˈpærəsəl パラソル]。 ステッキ cane [keɪn ケイン]。 (31) 鉛筆 pencil [ˈpɛnsəl ペンシル]。 knife [naɪf ナイフ]。 (32) 万年筆 fountain pen [ˈfaʊntɪn pen ファウンティンペン]。 エバシャープ eversharp pencil [ˈevɜːʃɑ:p ˈpɛnsəl スグァシャープペンシル]。 father [ˈfɑːðə ファザ]。 mother [ˈmʌðə マザ]。

## 4.

## 僕には眼が二つと耳が二つとある



英語の「数」の言ひ方は御存知でせうね。

one	two	three	four	five	six	seven	eight
一	二	三	四	五	六	七	八
nine	ten	eleven	twelve				
九	十	十一	十二				

御存知のない方は、先づこれだけ覚えておしまひなさい。

one [wʌn わん] 一, two [tu: トゥ] 二, three [θri: スリ] 三, four [fɔ: フォ] 四, five [faiv ファイヴ] 五, six [sɪks] 六, seven [sevn セヴン] 七, eight [eit エイト] 八, nine [nain ナイン] 九, ten [ten] 十。

日本語で「口一つ」「眼二つ」といつた風にいふが、英語ではいつでも「数」の方を前に

one mouth (また a mouth)	two eyes	two ears
一つの口	二つの眼	二つの耳

といつた風に言ふがきまりである。斯んな次第で

眼二つと耳二つと これは例の and でつないで two eyes and two ears とする。eyes は eye の、ears の ear の語尾に s の附いたもの、即ち複数形であることは言ふまでもない。

僕には……ある これは「僕は……を持つてゐる」といふも同じで、I have……と云ふ。即ち have は「……を持つてゐる」「……ある」の意をあらはす語である。

語句は「～は……です」の場合に、「～です……」とすると同じ風に「～には……ある」の場合も、「～ある……」即ち I have……と云して、「……」の所に「あるもの」「持つてゐるもの」を置くのである。だから全文は

I have two eyes and two ears.

とすればよい。讀方は I have と續け、そこでちよつと息を休めて

アイはヴ……ミ。| アイズアントミ。| いアズ

eleven [ilévɪn イレヴン] 十一, twelve [twelv トゥエルヴ] 十二, mouth [maʊθ マウス] 口, eye(s) [ai(z) アイ(ズ)] 眼, ear(s) [iə(z) イア(ズ)] 耳, have [hæv ハヴ] 持つてゐる、ある。

または、two eyes の次でも、ちよつこ息を休めて

アイはヴ……こ。| あイズ……アンドこ。| いアズ  
こいふ。きちらにしても、言葉尻を下げることを忘れては  
ならぬ。

この have こいふ語と同じ意味のものに has こ  
いふ語がある。併しきちらを何處に使つてもよい  
こいふのではなくて、その使ひ方はちやんこきまつてゐる  
こは、is, am, are が同意の「です」の意を示すが、その使  
ひ方が、きまつてゐるこ同じわけだ。

〔甲〕 I こ you こ、それから複数の語について、それが  
「持つてゐる」「ある」の場合には have

〔乙〕 I こ you こ以外の単数の語について、それが「持つ  
てゐる」「ある」の場合には has  
を使ふ。つまり複数には have 単数には has を使ふ。たゞ  
し I こ you こは単数でありながら、複数並に使ふのだこ覺  
えておけばよい。

#### 単数の場合

I have.....  
You have.....  
He has.....  
She has.....  
A boy has

#### 複数の場合

We have.....  
You have.....  
They have.....  
Boys have.....

has [hæz はズ] 意味は have と同じ。

### 例 題

- (33) 君には口が一つこ鼻が一つこあります。  
(34) 私共は手を二つこ足を二つこ持つてゐます。  
(35) きの手にも指が五本あります。  
(36) きの足にも趾<sup>ゆび</sup>が五本あります。  
(37) あの男は新しい万年筆を持つてゐます。  
(38) あの女には子供が三人あります。  
(39) 彼等には親切な先生がいます。  
(40) 君等はよい両親をお持ちです。

出来ましたか。have こ has こ使ひわけを誤つてはな  
りません

- (33) You have a mouth and a nose.  
(34) We have two hands and two feet.  
(35) Each hand has five fingers.

「きの手」「きちらの手」は一本だけの手のこ、即ち単数  
ですから、has を使はねばならぬのです。

- (36) Each foot has five toes.

同じ「ゆび」でも、手の「ゆび」は finger で、足の「ゆび」は

(33) 鼻 nose [nouz のウズ]。 (34) 手 hand [hænd はンド] 足 foot [fut  
ふト] feet [fi:t ふいト] foot の複数。 (35) どの=各の each [i:tʃ い  
イチ] 指 finger [fiŋgə フィンガ]。趾 toe [tu とう]。

toe と別の語を使ふに注意して下さい。

(37) He has a new fountain pen.

単数の he にですから、have ではありません。

(38) She has three children.

(39) They have a kind teacher.

(40) You have good parents.

単数には a が入用、たゞし each のやうな「～の」の意の語の附く時は不用。複数には a は勿論不用。上記の例題中に a のある場合と、ない場合とにつき、よく考へて下さい。

念のため、次の単数と複数とを對照して覚えて下さい。

{ 単数 { 複数	eye	ear	mouth	noes	finger	toe
	eyes	ears	mouths	noses	fingers	toes
{ 単数 { 複数	hand	foot	child	teacher	parent	
	hands	feet	children	teachers	parents	

大多数は、単数の語尾に s が附いた形が複数だが、foot と child とは例外で、語尾に s を附けた形が複数形とならぬに注意して下さい。

\* \* \*

(37) 新しい new [nju: にゅー], (38) 子供 children [tʃɪldrən ちルドラン child の複数], (39) 先生 teacher [ti:tʃə ぢー | ちゃー].

## あの男の子は肩にカバンをかけてゐる

あの男の子は 「あの男は」なら he でよいが、「あの男の子は」といふには「あの」といふ語を、「男の子は」即ち boy に附けるのである。「あの」は that 即ち「あれは」「それは」の意味にも使ふ語である。that といふ語は、

That is a dog. あれは犬です。

さいつた風に次に is の續く時は「あれは」「それは」の意で

That dog is.....あの犬は.....です。

さいつた風に、次に 名詞 (boy のやうな語) が附く時は「あの」または「その」の意に使はれる。これは this も those も these も同じで

{ This is.....これは.....です。

{ This dog is..... この犬は.....です。

{ Those are.....あれ(複数)は.....です。

{ Those cats are.....あの猫(複数)は.....です。

{ These are..... これ(複数)は.....です。

{ These horses are..... この馬(複数)は.....です。

さうして「この」「あの」「その」の方の this, that, these, those の代りに the といふ語を使つてもよい。これは単数の this, that の代りをも、複数の these, those の代りをもして、日本

the [強く讀む時は ði: じー]、たゞし普通は軽く短く ðə ざと讀む。また母音で始まる語の前にある時は、矢張り軽く短く ði じと讀む。

語ならば、口に出して「あの」「その」「この」なき言はないが、聞く人にそのつもりであることがわかる場合に、これを使ふのである。

斯んな次第で、この「あの男の子は」は that boy または the boy とするるのである。これは一人の場合だからである。二人以上の男の子を指すのなら those boys または the boys とする。

that, this, those, these, the が附けば、a は勿論附けるには及ばぬ、いや、附けてはならぬのだから注意せねばならぬ。

肩に「肩」は shoulder といふ。たゞし日本語ではたゞ「肩」とばかりいふが、英語では斯んな場合、それが「だれの肩」であるかを明かにするために his shoulder (彼男の肩)と

いふのが普通である。同じわけで、日本語では

私は口で食ふ。

君は本を持つて来たか。

彼はポケットからハンカチフを出して顔をふいた。  
 といへばよい所を、英語では一々に「だれの」といふ説明を附けて

私は私の口で食ふ。

君は君の本を持つて来たか。

彼は彼のポケットから彼のハンカチフを出して彼の顔をふいた。

といつた風にいふがきまりになつてゐる。このこともよく覚えておかねばならぬ。

「肩に」の「に」は「……の上に」といふも同じだから on を使ふ。そしてその位置が日本語と反対で

on his shoulder 彼の肩(の上)に

とする。同じわけで、

in my mouth 私の口(の中)に

at his side 彼男の腰(の側)に

under the desk (その)机の下に

by the chair (その)椅子の側に

と、總て日本語と on, in, at, under, by 等の語は、あべこべになるに注意せねばならぬ。

カバン 學生用のカバンは bag といふ。婦人持の「手提袋」なきも同じく bag といふ。たゞし旅行用の「大鞆」のことは、別に trunk といふから混同してはならぬ。

所で、この bag にも「だれの」bag か、それを示すことば、即ちこゝでは his (彼男の) を附けて、his bag とせんければならぬことは、shoulder の場合に述べた通りである。

shoulder [ˈʃouldə ｼョウルダ] 肩, on [ɒn オン] ……の上に, in [ɪn イン] ……の中に, at [ət アト] ……の側に, under [ˈʌndə あンダ] ……の下に, by [baɪ バイ] ……の側に, side [saɪd サイド] 腰, desk [desk デスク] 机, chair [tʃeə ちゃア] 椅子, bag [bæg ばグ] カバン、手提袋, trunk [trʌŋk トランク] 大鞆。



かけてゐます 日本語では

肩にかけてゐる 背に背負つてゐる

肩にかついでゐる 腕にかゝへてゐる

腕にだいてゐる 腰にさけてゐる

頭にかぶつてゐる 足にはいてゐる

なき、それぞれ別の言葉を使ふが、よく考へて見れば、これは皆「持つてゐる」と言ひかへることもできる。「肩にかけてゐる」は「肩の上に持つてゐる」といふも同じこと、「頭にかぶつてゐる」は「頭の上に持つてゐる」といふも同じことである。斯んな次第で、英語では此等の場合には總て同じ have (または has) を使つて、格別變つた語は一切使はぬことになつてゐるのである。

以上研究した所で

あの男の子は = that boy

肩に = on his shoulder

カバンを = his bag

かけてゐる = has

と、入用な語句は全部わかつた。さて、その順序はさうかと言ふに、英語では、いつでも

第一には「～は」に當る語

第二には「さうしてゐる」の意をあらはす語を置く。

従つて、本文も第一に that boy 第二に has を置く。

第三には「何を」has してゐるのか、その品物

第四には「何處に」has してゐるのか、その場所を示す語を置く。即ち has の次に his bag と置いて、最後に on his shoulder と置くのである。

さ、その順序に書いて御覽なさい。文の最初は大字で書くこと、最後に終止符の「。」を附けること、斯んな誰でも知つてゐることを誤らぬやう注意が肝心である。

That boy has his bag on his shoulder.

讀方は次の通り、句切る箇所を續けて讀む箇所を注意して下さい。

ざとほイはズひズばグ……オンひズしョウルダ

### 例 題

- (41) 私は口にパイプをくわへてゐる。
- (42) 君は頭に高帽をかぶつてゐる。
- (43) あの男は手にステッキを携へてゐる。
- (44) あの女は背に赤子を背負つてゐる。
- (45) あの女の子は腕の下に袋をかゝへてゐる。
- (46) あの軍人は肩に鐵砲をかついでゐる。
- (47) 彼は腰にサベルを提げてゐる。

(41) パイプ pipe [paip ぱイプ]。 (42) 頭 head [hed ヘド]、高帽 tall hat [tɔ:l hæet とールハト]。 (43) 背 back [bæk ぼク]、赤子 baby [béibi べイビ]。 (44) 腕 arm [ɑ:m あーム]。 (45) 軍人 soldier [sɔ:ldɪə せウルヂャ]、鐵砲 gun [gʌn ガン]。 (47) サベル sabre [séibə せイバ]。

(48) その學生は(鼻に)眼鏡をかけてゐる。

(49) この女學生は(足に)靴をはいてゐる。

(50) あの子は(手に)手袋をはめてゐる。

大分六づかしいから、誤りのないやう、充分に注意して作つて下さらなくてはならぬ。

(41) I have a pipe in my mouth.

(42) You have a tall hat on your head.

(43) He has a cane in his hand.

ステッキは手に「握つて」持つ、即ち「掌(てのひら)の中に」持つから in を使はねばならぬのだ。同じわけで、パイプは口の中に入れるから in だが、帽子は頭の上につけるのだから on である。

(44) She has a baby on her back.

自分の赤坊なら a baby を her baby とする。

(45) That girl has a bag under her arm.

(46) That soldier has a gun on his shoulder.

(47) He has a sabre at his side.

(48) That student has spectacles on (his nose).

(48) 學生 student [stju:dənt ストューダント]、眼鏡 spectacles [spéktəklz スペクタクルズ]。 (49) 女學生 girl-student、靴 shoes [ʃu:z シューズ]。 (50) 手袋 gloves [gləvz グラヴズ]。

(49) This girl-student has shoes on (her feet).

(50) That boy has gloves on (his hands).

眼鏡や靴、手袋などは左右二つで一組になつてゐるものだからいつでも語尾に s を附けた形、即ち複数形を使ふ。従つて a を附けないに注意。

眼鏡は鼻の上に、靴は足の上に、手袋は手の上にさきまつてゐて、他の部分にかけたり、はいたり、はめたりするところは絶対がないから、特に nose, feet, hand は略してもわかる、即ち上記の答案に ( ) を附けてある部分は、全く略してもよいのである。これは (42) の his head (46) の his shoulder も同様である。たゞし、この場合でも on だけは省いてはならぬ。日本語から考へたら「彼は高帽を(頭に)かぶつてゐる」「あの子は(手に)手袋をはめてゐる」だから、on も略してよいやうに思はれるから、まちがはないやうに覚えておかねばならぬ。

同じ on でも (44) は、その持つてゐる場所を明示する必要があるから、勿論略してはいけない。また on 以外の語、即ち in や at や under などを使ふ場合には、その場所が解り切つてゐても、一切略しては不可なのである。略してよいのは、on の次に附く語句の場合だけださ覚えておいて願ひたい。

## 5.

## 僕の父は大層旨く英語を話す ことができる



**僕の父は** my father だが、**自分の**父、母、兄弟、姉妹なきをいふ場合に限り、特に my を略して、ただ father, mother, brother, sister だけでいつもよい。つまり my を付けても、略しても、どちらでもよいのである。たゞしこれは my の場合だけで、「君の父」「彼の母」など、他人の父母、兄弟、姉妹をいふ時には、勿論「～の」に當る

語は略してはいけないのである。

**大層**旨く「大層」は very で、「旨く」は well だから、very well といへばよい。

**英語を** English で、これは England (英國)といふ國名から出来た語、

國名及び  
それから  
出来た語 **國名及びそれから出来た語は、いつでも最初の一字を大字で書け**

といふ規則がある。従つて

日 本 = Japan 日本語 = Japanese

フランス = France フランス語 = French

ドイ ツ = Germany ドイ ツ 語 = German

いつでも斯んな風に、大字で書き出すことを忘れてはならぬ。

**話す**ことができる「話す」は speak 「**こ**ことができる」は can といひ、日本語に反對に can を前に、can speak といふ。

書くことができる = can write

讀むことができる = can read

very [véri ヴェリ] 甚だ、大層。 well [wel ウェル] よく、旨く。 English [ɪŋɡlɪʃ イングリシ] 英語。 England [ɪŋɡlənd イングランド] 英國。 Japan [dʒəpæn ジャパン] 日本。 Japanese [dʒæpəniːz ジャパニーズ] 日本語。 France [fraːns フランス] フランス。 French [frentʃ フレンチ] フランス語。 Germany [dʒɔːmənɪ ジャーマニ] ドイツ。 German [dʒɔːmən] ドイツ語。 speak [spi:k スピーク] 話す。 can [kæn キャン] ..... ことができる、..... 能ふ。 write [raɪt ライト] (字を)書く。 read [ri:d リード] 讀む。

歌ふことができる = can sing

畫をかくことができる = can draw

いつでも斯んな風に、canの方が「～する」の意をあらはす語の前に附くのである。

さて、これで入用の語句は全部解つた。

僕の父は = (my) father

大層旨く = very well

英語を = English

話すことができる = can speak

順序は例により日本語ちがつた所がある。第一には、いつもの通り「誰は」を、その文の題目になる人物をあらはす語、即ちこゝでは (my) father を置く。第二には、その人物が「さうする」を、その動作をあらはす語、即ちこゝでは can speak を置く。

主語と動詞 文法では、題目になる人物を示す語を主語、動作をあらはす語を動詞、その中の speak のやうな實際の動作を示す語を本動詞、これに附く can のやうなのを助動詞といつてゐる。

普通の文(平叙文)では、いつでも斯んな風に、第一主語、第二動詞、第三其他といふ順に並べるのである。

sing [siŋ] シンツ 歌ふ。 draw [dra: ドロ] (畫を)かく。

第三には「其他」だが、まだ English と very well と二部分ある。こちらを前に置くかと言へば、「話せる」のは何か、「英語を」だから、先づ English の方を先きにして、very well は最後に置く

目的語 文法では、「何を」さうするのか、動詞の次に置かれて、その「何を」の意味をあらはす語を目的語といつてゐる。目的語はいつでも動詞の次に置くのである。

副詞 very well は動詞を説明して、さの位の程度に話せるか、その程度を示してゐる。斯んな風に動詞を説明するために使ふ語のこゝを副詞といふ。

平叙文の順序は、斯んな次第で

主語 + 動詞 + 目的語 + 副詞

語順の標準 勿論いつでもこれだけ全部揃つてゐることは限らない、その一、二を缺くこゝもあり、またまだ外の部分の加はるこゝもあるが、大體はこれを標準として知つてをれば、英語の順序は大抵わかるわけである。

話が横道にそれたが、斯んな次第で、今研究してゐる英文は

My father can speak English very well.

とすればよいこゝがわかる。

## 例 題

- (51) 君は非常に旨く(字を)書くことができる。  
 (52) あの少年等は非常に速く走ることができる。  
 (53) あの婦人は中々うまく歌ふことができます。  
 (54) その紳士は可なりうまく(畫を)かくことができます。  
 (55) 私共は泳ぐことができます。  
 (56) あの男の母はフランス語を話すことができる。  
 (57) あの女はこれを読むことができます。  
 (58) 僕等の先生はドイツ文を書くことができます。  
 (59) 彼等は大層うまく踊るすることができます。  
 (60) 彼等の両親はうまくピアノをひくことができます。

よく考へて作つて下さい。さう六づかしくはない筈です。  
 出来たら次の答案と對照して御覽なさい。

- (51) You can write very well.

write は「書く」だが、これは「字を」書く、「手紙を」書く場合にのみ使ふ語で、write をさへ言へば、わざわざそれに「字を」に相當する語を入れないでもよい。

(52) 速く fast [fɑ:st ファイスト], 走る run [ran ラン], (53) 婦人 lady [leidi レイディ], (54) 紳士 gentleman [dʒɛntlmən ジェントルマン], 可なり pretty [prɪti プリッティ], (55) 泳ぐ swim [swim スウィム], (59) 踊る dance [da:ns ダンス], (60) ピアノ piano [pjænəu ピャノウ], ひく play [plei プレイ]。

- (52) Those boys can run very fast.  
 (53) That lady can sing very well.

「中々」も「非常に」も「甚だ」も「大層」も、皆結局同意であるから、されにも very を使へばよい。

- (54) That gentleman can draw pretty well.

「可なり」は pretty といふ。draw は畫を「かく」で、これを使へばわざわざ「畫を」に相當する語を要しないこと、write の「字を」に於けること同じである。

- (55) We can swim.  
 (56) His mother can speak French.  
 (57) She can read this.  
 (58) Our teacher can write German.

「ドイツ文」も「ドイツ語」と同じく German でよい。これは「日本語」と「日本文」、「英語」と「英文」などもその通りで、こちらにも同じ語即ち Japanese, English を使へばよいのである。

- (59) They can dance very well.  
 (60) Their parents can play piano well.

以上の例題に依つても解る通りに、動詞の「です」「持つてゐる」は、主語のちがふに従ひ、

{I am. You are. He is. She is. (I, you 以外の単数) is.

{We are. You are. They are. (複数は全部) are.

{I have. You have. He has. She has. (I, you 以外の単数) has.

{We have. You have. They have. (複数は全部) have.

主語は is am are が is am are の

can 三つあつたり、have has が二つあつたりするが、

can には一切そんなことは無い、

I can. You can. He can. She can.

We can. You can. They can.

is、単数にも複数にも、總て同じ can を使へばよいのである。

\* \* \*

### 私共は十分に勉強せんければ なりません

十分に勉強する 「勉強する」は「強く研究す」の意で、「研究す」は study 「強く」は hard それから「十分に」は「非常に」「甚だ」な意、同意だから very でよい。

この中、「研究す」即ち study は動詞だから、他の very hard (共に副詞) より前に置いて study very hard とすれば、それで「十分に勉強す」の意をあらはすことになる。「動詞 + 副詞」この順序は覚えておいて願ひたい。

助動詞と本動詞 せんければならぬ これは must といふが、丁度の can (.....ここができる)と同じわけで、これは動詞の study に附く助動詞である。いつでも「助動詞 + 本動詞」の語順であるから、この must は study の前に付けて must study very hard これで「十分に勉強せんければならぬ」の意をあらはすことになる。

これだけ解れば、この前に、此文の主語たる「私共は」即ち we を附けたら、それで標題の意味をあらはす英作文は出来るわけである。出来るでせう、さう出来ましたか。左様です、

We must study very hard.

これで立派に出来たのです。此文は

主語 + 助動詞 + 本動詞 + 副詞 + 副詞

の語順で出来てゐる文で、目的語は缺けてゐます。もし目的語があれば何處に入れるでせうか、左様です、本動詞の次に入れるのです。ですから「私共は英語を十分に研究せねばなりません」といふのでしたら

We must study English very hard.

とします。English は言ふまでもなく本動詞 study の目的語です。

## 例 題

- (61) 君達は字の書き方を習はねばなりません。  
 (62) 私共はインキで書かねばなりません。  
 (63) 私共は充分ていねいに書かねばなりません。  
 (64) 彼等は今日は家に残つてゐねばなりません。  
 (65) 君は是非これをお読みなさい。  
 (66) 君はそれを読んでよろしい。  
 (67) 君はそれを鉛筆で書いてよろしい。  
 (68) あの人々は充分に働かねばなりません。  
 (69) 君はしばらく遊んでよろしい。  
 (70) 君は其後は充分に勉強せねばなりません。

(66) 以下に出てゐる「……てよろしい」は may ごいふ。can や must と同じく、矢張り助動詞の一つで、本動詞の前に附ける語である。

助動詞は is ご am ご are また have ご has ごのやうに、主語により使ひわけをする必要はない。主語が何であつて

(61) 字の書き方 **how to write** [hau tə raɪt はウトゥらイト]、習ふ **learn** [lɔ:n らイン]、(62) インキで **in ink** [ɪŋk いンク]、(63) ていねいに **carefully** [kɛəfʊli ひアフリ]、(64) 今日は **to-day** [tə-deɪ トゥデー]、家に **at home** [həʊm ほウム]、残つてゐる **stay** [steɪ ステイ]、(66) ……てよろしい **may** [meɪ めイ]、(67) 鉛筆で **in pencil**、(68) 働く **work** [wɜ:k わーく]、(69) しばらく **for a while** [fɔː ə waɪl フォウワイル]、遊ぶ **play** [pleɪ プレイ]、(70) 其後は **after that** [ɑːftə ðæt あーフタズト]、

も、いつでも同じ形をそのまま使へばよいことに注意。

(61) You must learn how to write.

斯んな風に「何々のしかた」ごいふには、いつでも how to……ごいふ。

読み方=how to read      歌ひ方=how to sing  
 泳ぎ方=how to swim      踊り方=how to dance

(62) We must write in ink.

(63) We must write very carefully.

(64) They must stay at home to-day.

(65) You must read this.

「是非……なさい」は「……ねばならぬ」ご結局同意だから must を使へばよい。

(66) You may read it.

「それを」は that でも it でもよい。it のここは詳しく後に説明する豫定である。

(67) You may write it in pencil.

「鉛筆で」は in pencil でも、また with a pencil でも、ごちらでもよい。

(68) They must work very hard.

(69) You may play for a while.

(70) You must study hard after that.

大分例題が六づかしくなつてゐるから、日本文と對照してよく考へてもらひたい。



6.

あれは井上君ですか



**前**章までに研究したのは、總て I am..... (私は.....です)  
I have (私は.....を持つてゐる) I can..... (私は.....  
ここができる) なぞいつた風の事實を そのまゝに 述べる文  
ばかりであつた。斯んな文のこゝを文法では 平叙文 (「平」



は「そのまゝに」「叙」は「叙べる」の意)をいふ。

此章以下には、「君は……ですか」「君は……を持つてゐるか」「君は……ができるか」といつた風の間ふ場合の文を研究する豫定である。文法ではこんな間ふ場合の文を疑問文をいふ。

これは私の本です……………平叙文

これは私の本ですか……………疑問文

「か」に當る英語  
といつた風に、疑問文は普通平叙文の最後に「か」のやうな語を一つ附けるに出来るのである。

所が、英語にはこんな「か」に相當する語はない。その代りに

This is my book. ……………平叙文

Is this my book? ……………疑問文

といつた風に

(1) 平叙文では

主語と動詞の位置  
主語＋動詞＋其他……………の順序であるのを

疑問文では

動詞＋主語＋其他……………を、主語と動詞の順序を  
反對に置くのである。

(2) 平叙文の最後には、終止符「。」を附けるが、

疑問文の最後には、疑問符「？」を附ける。

疑問符 「？」はちよつと人間の耳の形に似てゐる。人に物を聞く時には耳を立てる、だから疑問文には、耳の形に似

た「？」を附ける……これはこぢつけだが、ま、そんな風に「？」符のこゝを覚えておくを、覚え易からうと思ふ。

(3) 讀む時には、

疑問文の讀方  
平叙文は

ジスイズ……マイブク

を、言葉尻を下けるが、これに反し

疑問文は

イズジス……マイブク

を言葉尻を上ける。

本書には「言葉尻を下ける」所には「'」符で示してあるが、同様「上ける所」は「'」符で示すここにするから覚えておいてもらひたい。

以上三つ、これが平叙文と疑問文とのちがふ要點である。さて、これだけのこゝが解れば、標題の「あれは井上君ですか」は、わけなく作れる筈だ。一つ考へて御覽なさい。

あれは これは男の人を指していふのだから、he でなくてはならぬ。

井上君 Mr. Inoue でよい。

ですか 「か」に相當する英語はない。「です」は is だ。

所で此文の主語は he で、動詞は is それから Mr. Inoue は、所謂「其他」である。だから

## 動詞+主語+其他

の順序に並べて、最後に疑問符の「?」を置けばよい。

Is he Mr. Inoue?

読む時には Is he を續けて、そこでちよつこ息を休め、言葉尻を上げて

イズひー……みスタイノウエ'

これでよいのである。

## 例 題

- (71) 君は加藤君ですか。  
 (72) あれはよい少年ですか。  
 (73) あの紳士と婦人は君の両親ですか。  
 (74) あれは僕の叔父と叔母ですか。  
 (75) あれは君達の學校ですか。  
 (76) これは君の萬年筆ですか。  
 (77) あれは君の姉さんですか。  
 (78) 君の父はお達者ですか。  
 (79) あの女の母は病氣ですか。  
 (80) 彼等は山田氏夫婦ですか。

やさしいでせう、わけなく出來たでせう。次の答案と比較して下さい。

- (71) Are you Mr. Katō?  
 (72) Is he a good boy?  
 (73) Are those gentleman and lady your parents?  
 (74) They are my uncle and aunt.  
 (75) Is that your school?  
 (76) Is this your fountain pen?  
 (77) Is she your sister?  
 (78) Is your father well?  
 (79) Is her mother ill?  
 (80) Are they Mr. and Mrs. Yamada?

is, am, are の使ひ方を誤りはしませんでしたか。I, you 以外の單數、即ち一人の人、一つの物に就て述べる時には is を使ひ、複數、即ち二人以上、二つ以上の物に就て述べる時には are を使はねばならぬことをまちがつてはならぬ。

\* \* \*

(74) 叔父 uncle [ˈʌŋkl̩ あんクル]、叔母 aunt [a:nt あいんと]。(78) お達者で well [wel ウェル]。(79) 病氣で ill [il いル]。(80) 一氏夫婦 Mr. and Mrs.—

## いえ、井上君ではありません

斯んな風に「……でない」と、問の通りであることを認めない文のこゝを否定文といふ。否定文は

主語+動詞+not+其他

さいつた風に、動詞の次に not をいふ語を入れるので、これは「……ぬ」の意をあらはす語である。

I am not.....	私は.....でない
You are not.....	君は(君等は).....でない
He is not.....	彼男は.....でない
She is not.....	彼女は.....でない
This is not.....	これは.....でない
That is not.....	あれ(それ)は.....でない
We are not.....	私等は.....でない
They are not.....	彼等は.....でない
These are not.....	これは.....でない
Those are not.....	あれ(それ)は.....でない

と、いつでも is, am, are の次に not を入れると「……でない」の意をあらはすのである。

句切符「、」  
いえ 斯んな風に、人に何か問はれた時、さうでないを否定する場合には、いつも no をいふ語

not [not のト] .....ぬ。 no [nou のウ] 否。 yes [jes イェス] 然り。

を使ふ。反對に「さうです」と同意する場合には yes をいふ語を使ふ。Yes, no の次には、普通句切符をいつて「、」を附ける。

井上君ではありません これは詳しく言へば「あれは井上君ではありません」といふべきを略したものであることは言ふまでもない。日本語では、問の文に對して、答の文なきでは、まちがふおそれのない場合なきには、よく略して言はぬこゝが往々あるが、英語では主語のやうな大切な語は絶対に略さない。必ず he is not.....といはねばならぬ。

これで、標題の英文は出来る筈.....出来たでせう。

No, he is not Mr. Inoue.

句切符の所では、ちよつと言葉尻を上げて、息を休める。not は前の is (am, are) と續けさまによんで、その次に少し息を休める。斯んな風に。

のウ'.....ひ | イスのト.....みスタイノウエ'

## 例 題

- (81) 君は楠木君ですか。—はい、さうです。  
 (82) あれは新田氏ですか。—いえ、さうではありません。  
 (83) これは君のナイフですか。—はい、さうです。  
 (84) あれはあの男のエバシ、トプですか。—いえ、さうで

ありません。

(85) これは君の靴ですか。—はい、さうです。

(86) あれは彼女の手袋ですか。—いえ、さうではありません。

(87) あなたはよい少女ですか。—はい、さうです。

(88) 君は悪い少年ではありませんか。—はい悪い少年ではありません。

(89) これは君の鉛筆ではありませんか。—いえ、私の鉛筆です。

(90) あれはあの女の眼鏡ではありませんか。—はい、あの女の眼鏡ではありません。

大分六づかしい、まだ説明しないところが澤山あるが、兎に角先づ答案を作つて見て願ひたい。さうして次の答案を対照しつゝ、説明をよく讀んでもらひたい。

(81) Are you Mr. Kusunoki?—Yes, I am.

答の文の  
省略 「さうです」は、こゝでは「私は楠木です」といふ  
も同じですから、I am Kusunoki. とすればよい  
わけだが、こんな答の文では主語と動詞、即ち I am だけに  
して、其他の部分、即ち Kusunoki は略して普通は言はない  
のが定めになつてゐる。つまり略してもわかる場合である  
からだ。

(82) Is he Mr. Nitta?—No, he is not.

こゝの「さうではありません」は「あれは新田氏ではありません」といふも同意であるが、(1)と同じわけで、斯んな場合には、主語と動詞と not とだけ、即ち he is not だけにして、其他の部分、即ち Mr. Nitta は略すのである。

(83) Is this your knife?—Yes, it is.

こゝの「さうです」は「これは私のナイフです」といふも同じだが、例により主語と動詞だけにして、其他の部分、即ち my knife は略すのである。

それにしても、上には Yes, **this** is. としないで、this の代わりに it とあるは何故かと言ふに、前にもちよつと言つたことのある通りに、it は this や that の代用をする語で、「それは」「あれは」「これは」の意を述べる時に使つてよい語である。たゞ、日本語なら

これは君のか。—はい、(これは)僕のだ。

あれは本か。いえ、(あれは)本でない。(あれは)雑記帳だ。

その用法  
こいつた風に、間に「あれは」「これは」といふに對し、答では、その通りをくりかへして、一々「あれは」「これは」といはないで、其部分だけを略していふ。即ち言外に其意味を含めて、言葉には出さないが通例になつてゐる。丁度そんな場合、即ち

日本語なら一々口に出して言はないで、言外に含ませていふ「これは」「あれは」「それは」の場合に、英語ではこの *it* を使ふのである。言ひかへれば、日本語では、前後の関係から考へたら解る場合には、文に最も大切な主語でも略して

僕の本だ。

雑記帳だ。

こいふが、英語では、前にも述べた通り、主語のやうな大切な語はどんな場合でも決して略してはいけない定めになつてゐるから、そんな場合には、主語に *it* を使つて

It is my book.

It is a note-book.

こいつた風に言ふのである。

(84) Is that his ever-sharp pencil?—No, it is not.

これも、「さうでない」は「私のエバシャープでない」こいふべきを略したものであるこは言ふまでもない。

(85) Are these your shoes?—Yes, they are.

shoes (靴)は左右二つより成るもの、即ち複数だから、それを指す「これは」は、複数の *these* でなくてはならぬ。

答の「さうです」は「(これは)私の靴です」こいふも同じ

note-book [nóut-buk のウトブック] 雑記帳。

で、例により「私の靴」だけは略してよいのだ。所で「(これは)です」で、(これは)は言外に含めて、口には出さぬのだから、単数ならば前に述べた *it* であるが、こゝは複数だから *it* ではない。 *it* の複数の *they* を使はねばならぬのである。

*they* は御存知の通り、*he* の複数にも、また *she* の複数にも、また男女混じての複数にも使ふ語だが、またこゝに述べる通り *this* や *that* の代用をする *it* の複数、つまり *this* の複数の *these* や、*that* の複数の *those* の代用をもする語なのである。

(86) Are those her gloves?—No, they are not.

手袋も複数だから、*that* や *it* は使はれないから、その複数の *those* と *they* を使ふのである。

(87) Are you a good girl?—Yes, I am.

(88) Are you not a bad boy?—No, I am not.

「～は……でないか」を否定的に問ふには、この (88) のやうに *are* (また *is, am*) の次に主語、その次に *not* を置くのである。

Am I not……? 私は……でないか。

Are we not……? 私等は……でないか。

Are you not……? 君(君等)は……でないか。

Is he not……? 彼男は……でないか。

Is she not.....? 彼女は.....でないか。  
 Are they not.....? 彼等は.....でないか。  
 Is this not.....? これは.....でないか。  
 Is that not.....? あれ(それ)は.....でないか。  
 Is it not.....? .....でないか。  
 Are these not.....? これ(複数)は.....でないか。  
 Are those not.....? あれ(それ、複数).....はでないか。  
 Are they not.....? .....でないか(複数)。  
 それから、「はい、悪い少年ではありません」を、上には。  
 No, I am not.

さある、勿論 am not の次には a bad boy を略したのであるが、それにしても、「はい」を no としたのは何故であらうか。

これには、こんな規則があるのだ。

日本語では

これは君の本か— $\begin{cases} \text{はい、さうです。} \\ \text{いえ、さうではありません。} \end{cases}$

これは君の本でないか— $\begin{cases} \text{いえ、私の本です。} \\ \text{はい、私の本ではありません。} \end{cases}$

斯んな風に、問の通りであれば、「はい」問の通りでなくば「いえ」といふが、英語では

Is this your book?— $\begin{cases} \text{Yes, it is.} \\ \text{No, it is not.} \end{cases}$

この場合は、日本語と全く同じである。

Is this not your book?— $\begin{cases} \text{Yes, it is} \\ \text{No, it is not.} \end{cases}$

この場合、日本語と正反対、即ち「いえ、さうです」の「いえ」に Yes を使つて、「はい、さうではありません」の「はい」に No を使ふ。

これは、英語では「～ですか」「～でないか」ごちらの間でもそんなここに拘泥しないで、「～である」時は yes と答へ、「～でない」時は no と答へるのである。だから「～でないか」の間の場合、その答の yes と no とは、丁度日本の「はい」「いえ」と正反対であつて、yes が「いえ」no が「はい」となるのである。

このことは充分に會得して置かないと、随分まちがひをしでかすから大に注意せんければならぬのである。

(89) Is this not your pencil?—Yes, it is.

こゝにも「いえ」を yes としてあるに御注意。

(90) Are those not her spectacles?—No, they are not.

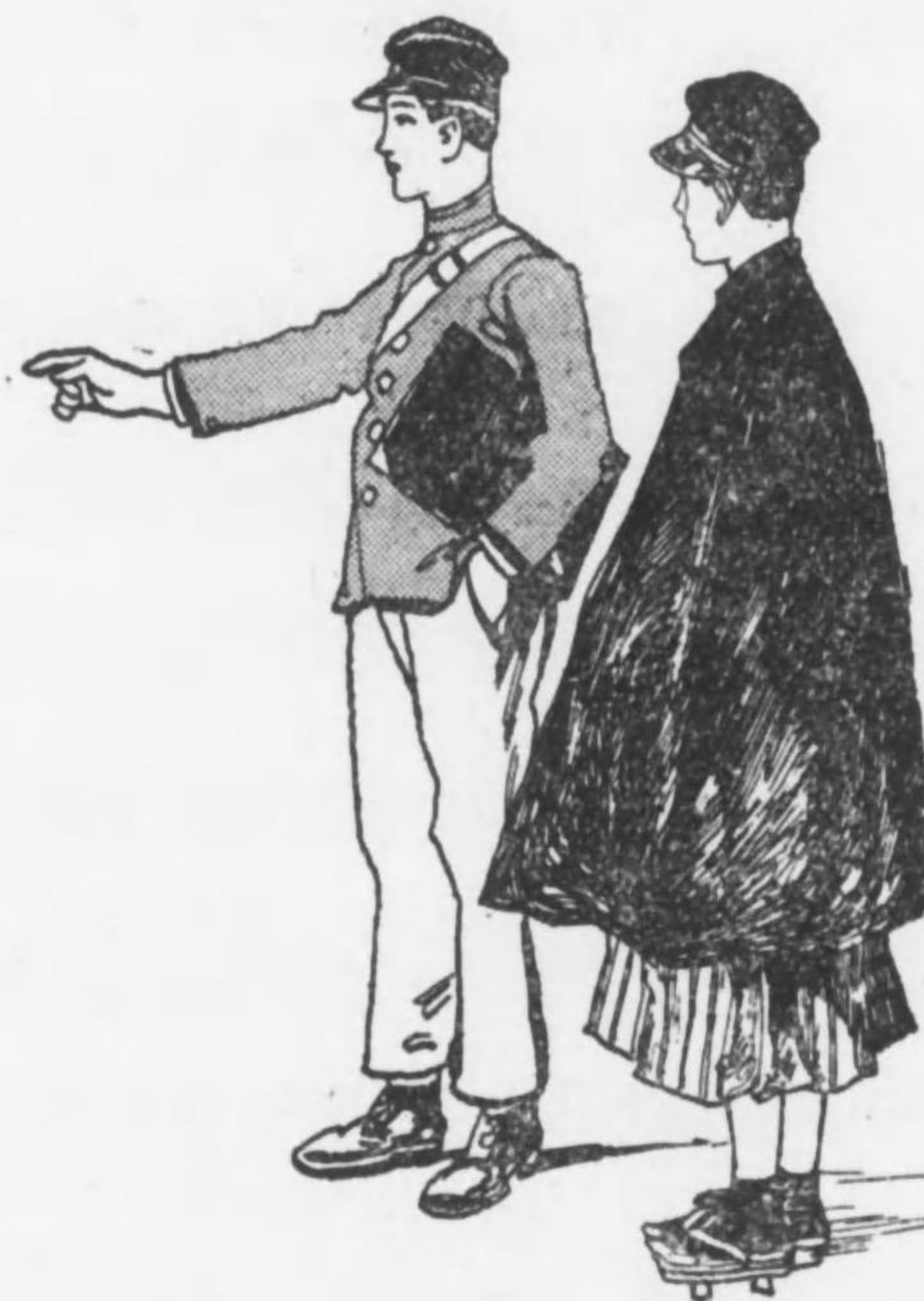
こゝには「はい」を no としてあるに御注意。

大分六づかしい規則を幾つも述べたから、もう一度、いや、二三次も繰り返へし精讀して、確かり會得してもらひたい。



7.

## 誰 て す か



④ う一つ、斯んな簡単な意味をあらはす英文を研究して見よう。

誰 この人の名を問ふには who といふ語を使ふ。

ですか is か am か are でよい。

所で、この文は「あの男は誰ですか」とか「あの女は誰ですか」とかいふべきだが、こゝは

あれは井上君ですか。いえ、井上君ではありません。誰ですか。

こゝに續いてゐる場合であるから、「あの男は誰ですか」をいふべきを略してあるものゝわかる。

従つて、前にもいふ通り、英語では主語を略すこゝは決して許されないのであるから、これを補つて、さうするに、主語が he だから、am や are ではいけない。必ず is を使はんければならぬ。

彼は = he

誰 = who

ですか = is

この順序はさうであらうか。前に述べた通りに、疑問文では、主語より前に動詞の is を置くのであるから、

あれは井上君ですか。 Is he Mr. Inoue? から考へたら

あれは誰ですか。 Is he who?

こゝすればよい筈である。即ち「動詞+主語+其他?」の順序になるわけである。

所がこゝに斯んな規則がある

who [hu: ぶ] 誰。

### 問の語句は特に文の最初に置け

即ち who (誰) what (何) which (どちら、どれ) 及び when (いつ) where (何處) why (何故) how (さうして) なぞいふ語は、特にこれを文の最初に置かねばならぬのである。従つて本文は

Who is he?

これで「あの男は誰ですか」をいふ意味をあらはすのである。

### 例 題

- (91) 君は誰ですか。
- (92) 君等は誰ですか。
- (93) あれは何者ですか。
- (94) あの男の名は何さいひますか。
- (95) あの人々の名は何さいひますか。
- (96) これは何ですか。—英語の讀本です。
- (97) あれは何々ですか。—地圖と雜記帳とです。
- (98) どちらが君の本ですか。

what [wɒt ウオト] 何, which [wɪtʃ ウイチ] どちら、どれ, when [wen ウェン] いつ, where [weə ウェア] 何處, why [wai ワイ] 何故, how [haʊ ハウ] どうして, (94) 名 name [neɪm ネイム], (96) 英語の讀本 an English reader [ənɪŋɡlɪʃ rɪːdə アにングリシリーダ], (97) 地圖(製本したもの) atlas [ætɪləs アトラス], (一枚刷のもの) map [mæp マプ],



(99) どれが君の鉛筆ですか。

(100) 君の父は何處にいますか。

「問の語句は文の最初に置く」この規則を忘れないで、この例題を作つて下さい。

(91) Who are you?

(92) Who are you?

斯んな風に、who といふ語は、單數も複數も同形、言ひかへれば、「誰」も一人を問ふ時にも、また二人以上を指して「誰々」もいふ時にも、どちらにも使ふのである。

(93) What is he?

「何者」「何をしてゐる人」「何を職業にしてゐる人」  
who といつた風に、人の身分や職業を問ふには what を  
what 使ひ、「何といふ名の人」も名を問ふ時には who を使ふのである。

(94) What is his name?

(95) What are their names?

斯んな風に what は單數も複數も同形で、結局 (94) は Who is he? (95) は Who are they? といふも同意である。

(96) What is this?—It is an English reader.

who は「人」の名を問ふ時にのみ用ゐる、「あの鳥は何といふか」なといふ時に who は決して使はない。即ち人以外の

物には、必ず what を使つて What is that bird? といつた風にする。

an English book の an は a とも同意である。ただ、「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」の音(これをぼいん母音といふ)で始まる語の前には、a を使はないで、その代りに an を使ふのである。これは口調のためで、他に理由はあるのではない。

日本語でも「東」「南」を「ヒンガシ」「ミンナミ」と言つて御覽なさい。大變言ひよくなる。同じわけで、母音で始まる語の前に、a を附け、例へば

アエグ (a egg 一つの卵)

アオク (a ox 一疋の牛)

アアント (a ant 一疋の蟻)

アインチ (a inch 一吋)

アアンブレラ (a umbrella 一本の傘)

な言つて見たまへ。非常に口調が悪くて言ひ悪い。それで「ン」を一つ真中にはさんで

アンエグ (an egg)

のやうに言ふと、大變なめらかに發音が出来る。尤も、こ

egg [eg エグ] 卵, ox [ɒks オクス] 牡牛, ant [ænt アント] 蟻, inch [ɪntʃ インチ] 吋, いんち, umbrella [ʌmbréla アンブレラ] 傘。

れは

アン エグ

を別々に言ふのでなく、「アン」の「ン」を、「エグ」の「え」を続けさまに一言に「ンえ」で「ね」になるから、「アねグ」といふ風に言ふが普通である。同じわけで

an ox は「アンおクス」でなく「アのクス」

an ant は「アンアント」でなく「アなント」

an inch は「アンインチ」でなく「アにンチ」

an umbrella は「アンアンブレラ」でなく「アナンブレラ」

を言つた風に讀むのが普通である。

兎に角

**a と an とは全く同意。**

**母音で始まる語の前には、a の代りに an を付ける。**

をいふことを確かりよく覚えておいていただきたい。

the の三  
種の讀方

ついでに the の讀方も言つておかう。これは前にも言つた通りに this, that, these, those (この、その、あの) の代りに使はれる軽い語で、

それだけを強く讀む時には [ði: じ:] であるが、普通の場合は

母音で始まる語の前にある時は [ði じ] を軽く短く讀み

父音で始まる語の前にある時は [ðə ざ] を軽く短く讀むのである。「父音」(「子音」といふ人もある)とは「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」以外の音をいふのである。

the ant ジアント

the egg ジエグ

the inch ジインチ

the ox ジおクス

the umbrella ジアンブレラ

たゞし

the dog ザミグ

the cat ザキヤト

the horse ザほース

the cow ザかう

これ等は父音で始まる語の前に附く the だから [ðə ざ] を讀むのである。

大變話が横にそれたが、よく覚えておいて願ひたい。

(97) What are those?—They are an atlas and a note-book.

atlas は母音で始まる語だから、a でなく an を付ける。

(98) Which is your book?

cow [kau かう] 牝牛。

(99) Which is your pencil?

二つの中「どちら」を問ふにも、三つ以上の中「どれ」を問ふにも、同じ which を使へばよいのである。

(100) Where is your father?

「ある」を「るる」は「です」と同じく is (また am, are) を使ふ。従つて「何處に……はるるか」は、Where is ……? をいへばよい。

「私は何處にるるか」 Where am I?

「私共は何處にるるか」 Where are we?

「君(君達)は何處にるるか」 Where are you?

「彼男(女)は何處にるるか」 Where is he (she)?

「彼等は何處にるるか」 Where are they?

斯んな風に、主語に応じて、is, are, am の使ひわけをせんければならぬことは言ふまでもない。

Where is (am, are)……? は、また「何處に……はあるか」の意にも使ふ。即ち is, am, are は「るる」の外「ある」の意にも使つてよいのである。

「それ(あれ)は何處にあるか」 {Where is that?  
\Where are those?

「これは何處にあるか」 {Where is this?  
\Where are these?

「何處にあるか」 {Where is it?  
\Where are they?

## 本は何處にあるか。本箱の中にある。

本は 口に出して「この本」と明言してはゐないが、斯う問ふからには、この本を指してゐるのか、聞かれてゐる相手にも解つてゐるにきまつてゐる。斯んな場合にこそ、前に言つた the を附けて、the book をいふのである。

何處にあるか 前に言つた通り where is……? をして、文の最初に置く。尤も本が一冊の場合だから is だが、二冊以上ならば is を are とし、the book を the books と改むることは勿論である (the は a や an のやうに單數にばかり附くのでなく、單數、複數、何れに附けてもよいのであることに注意)。

Where is the book?

または

Where are the books?

これで問の文だけ出来た。答の文に進もう。

答の文は「本箱の中にある」といふだけで、「何が」あるのか、そのあるもの、即ち此文の主語が明示されてゐないが、勿論「その本は」「それは」といふべきを口に出して言はない場合なのだから、例の it (複數ならば they) を、斯んな場合には使ふべきである。

本箱の中に「本箱」は book-case で、case は「箱」の意。所で本箱は一つ二つと数へられるものだから、相手の人にさの本箱を解らない場合なら、必ず a を附けなければならぬし、これを解つてゐる場合なら、また其處の一つしか本箱がなく、「本箱に」をさへ言へば、その本箱を相手に解るやうな場合ならば the を附けねばならぬ。こゝは後段の場合を解して the book-case をするこゝにしよう。

「……の中に」は、御存知の in で、その位置は日本語を反對、即ち in the book-case を、前に置く。

ある 前に言つた通りで、一冊なら is 二冊以上なら are である。

It is in the book-case.

または

They are in the book-case.

### 例 題

(101) 地圖は何處にあるか。一壁にかゝつてゐる。

(102) 地球儀は何處にあるか。一箱の中にある。

book-case [bʊk-keɪs ぶくけいす] 本箱。

(101) 壁 wall [wɔ:l うえいる]。 (102) 地球儀 globe [gləʊb グローブ]、箱 box [bɒks ぼくす]。

(103) 君の自轉車は何處にあるか。一入口の側にある。

(104) 權助は何處にゐるか。一井戸の側にゐる。

(105) 子供達は何處にゐるか。一あの大きな木の下にゐる。

(106) 僕の靴や傘は何處にありますか。一戸の蔭にあります。

(107) 君の辭書は何處にありますか。一あの棚の上にあります。

(108) 君の家は何處ですか。一學校の近くです。

(109) 父は何處にゐますか。一座敷におゐります。

(110) 弟は何處にゐますか。一まだ寝てゐます(寢床にゐます)。

御存知のない語が澤山あらうと思ふ。脚註を参照して下さい。さうしてよく考へて兎に角答案を作つて下さい。そしてその上で始めて、次の答解や説明を御覽なさるこゝにして下さい。

(101) Where is the map?—It is on the wall.

(103) 自轉車 bicycle [baɪsɪkl ばいさいくる]、入口 the door [dɔ: どの]、  
(104) 井戸 well [wel うえい]、(105) 大きな木 big tree [big tri: びぐとり]、  
(106) 戸 door、の蔭に behind [bihaɪnd びはいんど]、(107) 辭書 dictionary [dɪkʃənəri だいくしゃなり]、棚 shelf [ʃelf せいふ]、(108) 家 house [haus はうす]、學校 school [sku:l ずくーる]、の近くに near [niə ニア]、  
(109) 座敷 parlor [pɑ:lə ぱーら]、(110) まだ still [sti:l スティール]、寢床 bed [bed べど]、

on は「……の上に」「……の表面に」で、必ずしも「机の上に」さいつたやうな場合だけでなく、「壁の表面に」即ち「壁にかゝつて」なごの場合にも使つてよいのである。

(102) Where is the globe?—It is in the box.

(103) Where is your bicycle?—It is by the door.

(104) Where is Gonsuke?—He is at the well.

同じ「……の側に」でも、人間が何か用事があつて、一時或物の側にゐる場合は at を使ひ、唯偶然側にゐる場合や、人間以外の物が側にある場合なごには by を使ふ。此區別はよく覚えておかねばならぬ。

(105) Where are the children?—They are under that big tree.

(106) Where are my shoes and umbrella?—They are behind the door.

(107) Where is your dictionary?—It is on the shelf.

(108) Where is your house?—It is near the school.

(109) Where is (my) father?—He is in the parlor.

(110) Where is (my) brother?—He is still in bed.

「寝てゐる」は「寢床に(はいつて)ゐる」さいふも同意だから、いつも is in bed さいひ、此場合 bed には a も the も附けない。

in, on, at, by, under, behind, near なごを、文法では前置詞さいふ。日本語ならば

～の中に    ～の上に    ～の蔭に

さいつた風に、「～」の後に置かれるのが、英語では

in～            on～            behind～

さ前に置かれるから、斯んな名が附いてゐるのである。

## 8.

## 戸口に郵便屋さんがあます



**郵便屋さん**、六づかしく言ふと、郵便配達、いや、先頃改稱されて、郵便集配員とやらしかつめらしい名になつたさうだが、英語では一向そんな改名なきはなく、昔からこれを postman といふ。post は「郵便」のこゝ。これに似た語を、ついでにもう少し列挙して見よう。諸君もついでに覚えておかれたい。

postman [pəʊstmən ぽうストマン] 郵便配達。

police	警察	policeman	巡查
motor	発動機	motor-man	運転手(電車なきの)
carriage	馬車	carriage-man	駟者
milk	牛乳	milk-man	牛乳配達

ただし

newspaper 新聞紙。 newsboy 新聞賣子(配達、立賣とも)

この位に止めて、標題の意をあらはす英作文の研究に進もう。

戸口に これは「戸の側に」といふも同じであるが、「の側に」には、前章に言つたやうに、at と by と二つある。ここは……左様、郵便屋さんが用事で来てゐるのだから、at の方でなくてはならぬ。at the door とする。

郵便屋さん a postman (いつも来る人がきまつてゐるならば、a の代りに the を使ふ)。

あります これは唯 is だけでなく、there is とする。その理由は斯うだ。

前章に述べた通りに

policeman [pəliːsmən ぽりースマン] 巡查, motor-man [məʊtə-mən もつクマン] 運転手(自動車の運転手は普通 chauffeur [ʃəʊfɔː ʃəʊfあ], 汽車の運転手 engine-driver [ɛndʒɪn-draɪvə エンヂンドライヴ] といふ), carriage-man [kærɪdʒ-mən キャリヂマン] (馬車の)駟者, milk-man [mɪlk-mən みルクマン] 牛乳配達, newspaper [njuːspéɪpə にゅースペイパ] 新聞紙, newsboy [njuːzboi にゅーズボイ] 新聞賣子。

本は何處にあるか。一机の上にある。

Where is the book?—It is on the desk.

「在所」<sup>ニ</sup> これは或るもの、「在る場所」をいつてゐるのだ。

「有無」 これとよく似てゐるが

机の上に何があるか—机の上に本がある。

これは、机の上に何かあるか、ないか<sup>あるなし</sup>「有無」を問はれて「本がある」<sup>ニ</sup>、その「有るもの」をいふのが目的で、上の「在る場所」をいふのは、全くちがつてゐる。

斯んなもの、「有無」を問ひ、「有るもの」を言ふには、

問には is (are) there?

答には there is (are)

と、is, are だけでなく、それに there といふ語を添えていふのがきまりになつてゐる。即ち上記の日本語は、英語では

What is there on the desk?—There is a book on the desk.

といふのである。もつと別の例をあける

{ The boy is in the room. (その)子は室内にゐる(在所)

{ There is a boy in the room. 室内に子が(一人)ゐる(有無)

{ The trees are in the garden. 木は庭にある(在所)

{ There are many trees in the garden.

庭に木が澤山ある(有無)

there [ðeə ぜア] 其處に, room [rum るム] 室、部屋, garden [gɑ:dən] 庭園, many [meni めニ] 多くの。

元來この there は「そこに」「かしこに」の意を示す語だが、この場合、即ち is, are と並ぶ場合の there には、そんな意なく、there is (are) 二語で「……がある」「……がゐる」の意で、is (are) there? 「……があるか」「……がゐるか」の意をあらはすのである。従つて

そこに木が澤山ある。

There are many trees there.

かしこに男の子が(一人)ゐる。

There is a boy there.

さいつた風に、is, are と並ぶ there の外に、もう一つ「かしこに」「そこに」の意をあらはす there を文の最後に附けねばならぬのである。

標題の英文は

There is a postman at the door.

これでよいのである。「何處に」さいつた風の場所を示す語句は、普通上記の at the door のやうに、文の最後に附けることに注意して下さい。

### 例 題

(III) 湖水にボウトがあります。

(111) 湖水 lake [leik れイク], ボウト boat [bout ぼウト],

- (112) 空には鳥が一羽あります。  
 (113) 水の中に魚が澤山あります。  
 (114) 庭に松の木が(一本)あります。  
 (115) 木の下に家鴨が数羽あります。  
 (116) 泉君は何處にいますか。—池の側にいます。  
 (117) 丘の上には誰がいますか。—大和君と河内君がいます。  
 (118) 戸の蔭に何がありますか。—傘が一本あります。  
 (119) 棚の上に何がありますか。—辞書が数冊あります。  
 (120) 辞書は何處にありますか。—棚の上にあります。

「有無」と「在所」を、即ち there is (are) と、たゞ is (are) の區別をよく考へて作らねばならぬ。例により先づ答案を作つて下さい。

- (111) There is a boat on the lake.  
 (112) There is a bird in the sky.  
 (113) There are many fish in the water.

fish は複数でも語尾に es を附けないでよい語、即ち単数と同形(たゞし fishes としてもよい)。

(112) 空 the sky [skai スカイ], 鳥 bird [bɔ:d ぼード], (113) 水 water [wɔ:ta ウォータ], 魚 fish [fi フィー], (114) 松の木 pine-tree [paɪn-tri: ばイントリ], (115) 家鴨 duck [dʌk ダク] 数(羽) some [sʌm さむ], (116) 池 pond [pɒnd ぼンド], (117) 丘 hill [hil ひル], (119) 数(冊) some.

- (114) There is a pine-tree in the garden.  
 (115) There are some ducks under the tree.  
 (116) Where is Mr. Izumi?—He is by the pond.  
 格別の用事なく、唯ぶらりこゐるを見て by を使つた。  
 (117) Who are there on the hill?—There are Mr. Yamamoto and Mr. Kōchi.

(116) は「在所」(117) は「有無」

- (118) What is there behind the door?—There is an umbrella.

a でなく an を使ふに注意。

- (119) What are there on the shelf?—There are some dictionaries.

dictionary の複数が dictionarys でなきに注意。

- (120) Where are the dictionaries?—They are on the shelf.

(119) は「有無」(120) は「在所」(120) の答案は二冊以上の辞書と見えたもの、一冊ならば

Where is the dictionary?—It is on the shelf.

とすべきことは勿論である。

\* \* \*



丘の上に何があるか。

あそこに櫻の木が数本ある。

別段研究するまでもなく、容易にお出来のこゝ思ふが如何。さ一つ作つて見て下さい。

丘の上に on the hill

何 what

があるか is (are) there?

「問の語句は文首に置く」のだから what を第一に

What is there on the hill?

これで問の文は出来た。

あそこに there

櫻の木が数本 some cherry-trees

「幾つ」はつきり解らないで「数本」「数冊」「数疋」「数人」なきいふには、いつでも some を使ふ。

ある there are

there が斯んな風に二つ入用で、

There are some cherry-trees there.

さなるに注意。即ち最初の there は are を二語で「ある」の意を、最後の there は一語で「あそこに」の意をあらはしてゐるのである。

## 例 題

(121) テイブルの上に何がありますか。

(122) テイブルの上に籠が一つあります。

(123) 籠の中に何がありますか。

(124) その中に林檎が幾つかあります。

(125) 林檎は幾つありますか。

(126) 八つ林檎がその中にあります。

(127) この教室に幾つ椅子がありますか。

(128) この教室には椅子は唯一つあるだけです。

(129) 此市に中學校は幾つありますか。

(130) 二つあります。

これはやさしい、直ぐ出来る筈だ。no mistakes (誤なし) にやつて下さい。

(121) What is there on the table?

(122) There is a basket on the table.

(123) What are there in the basket?

cherry [tʃɛri cherry], (121) テイブル table [tɛibl てイブル], (122) 籠 basket [bɑ:skɪt ば|スキト], (124) 林檎 apple [æpl あブル], 幾つか some, (125) 幾つ how many, (127) 教室 class-room [klɑ:s-rum クラスルーム], 椅子 chair [tʃɛə ちゃア], (128) 唯一だけ only ~ [ounli おウンリ], 市 city [sɪti サイトイ], 中學校 middle-school [mɪdl sku:l みドルスクール],

(124) There are some apples in it.

(125) How many apples are there?

数を「幾つ」と問ふ時には、いつでも how many ~ といひ、「~」の所に、その間はれてゐるもの、名を複数で置く。

How many boys are there?

男の子は幾人ゐるか。

How many dogs are there?

犬は幾疋ゐるか。

How many books are there in the book-case?

本箱の中に本は幾冊あるか。

how は「きれだけ」many は「多くの」だから、二語で「きれだけ多くの」結局「幾つ」といふも同意である。

(126) There are eight apples in it.

(127) How many chair are there in this class-room?

(128) There is only one chair in this class-room.

この only one chair を only a chair としてもよい。また in this class-room の代りに、in it (その中に) または here (ここに) なぎとしてもよい。同じわけで (122) (123) の in the basket を in it とし、(126) の in it を there (そこに) なぎし

here [hiə ぴア] こゝに。

てもよい。here や there には in や on の前置詞はつけない。一語で「こゝに」「そこに」と前置詞のあらはす「に」の意味をも含んでゐるのだから。

(129) How many middle-schools are there in this city?

(130) There are two.

How many の次は必ず複数の語を置くといふことを忘れてはならぬ。

## 9.

## 君は兄弟が幾人あるか



**英**語では「兄」も「弟」も、普通には區別しないで、同じく brother といひ、「姉」も「妹」も同じく sister といふ。だから「兄も弟」は brothers といひ、「姉も妹」も sisters といふ。各々の複數形を使へばよいといふことは、前に一度お話したことがあるから、御記憶のこゝに信ずる。

それでは「兄も妹」の場合には、さういふかといへば、そ

れは brother and sister といへばよい。「姉も弟」の場合でも sister and brother といはないで、矢張り brother の方を前に、brother and sister といふ。

「兄(數人)も妹(一人)」や「姉(一人)も弟(數人)」は brothers and sister である。「兄(一人)も妹(數人)」や「姉(數人)も弟(一人)」は brother and sisters である。「兄(數人)も妹(數人)」や「姉(數人)も弟(數人)」は brothers and sisters である。

さて、標題の意味をあらはす英文の研究にかゝらう。

君に……があるか 前章に言つた通りに、「……があるか」は is (are) there……? であるが、このやうに「君に……があるか」の場合は、「君は……を持つてゐるか」も同意だから、have (has) を使ふ方がよい。have (has) の用法は前に説いた通りに

I have…… 私は……を持つてゐる、私に……がある。

We have… 私共は……を持つてゐる、私共に……がある。

You have.. 君 } ……を持つてゐる、君 } に……がある。  
君達 }

He has … 彼男は……を持つてゐる、彼男に……がある。

She has … 彼女は……を持つてゐる、彼女に……がある。

It has…… (それは) ……を持つてゐる、(それに)……がある。

They have 彼等は } ……を持つてゐる、彼等に } ……がある。  
それ等は }

のやうに使ふのであるが、問の文、即ち「～は……を持つて

ゐるか」「に……があるか」さいふ場合には、丁度

I am…… 私は……です

Am I……? 私は……ですか。

疑問文の  
have  
has  
さ同じわけで主語と動詞の have (has) の位置を  
あべこべににして

Have I……? 私は……を持つてゐるか、私に……があるか

Have we …? 私共は…を持つてゐるか、私共に…があるか

Have you…? 君は } …を持つてゐるか、君に } …があるか  
君達は } 君達に }

Has he……? 彼男は…を持つてゐるか、彼男に…があるか

Has she …? 彼女は…を持つてゐるか、彼女に…があるか

Has it ……? (それは) …を持つてゐるか、(それに)…があるか

Have they..? 彼等は } …を持つてゐるか、彼等に } …があるか  
それ等は }

さいつた風になるのである。斯んな次第で、こゝの「君に…  
…があるか」も have you……? とすればよいことがわかる。

兄弟が幾人「幾人」即ち「幾つ」を数を問ふ時に使ふきま  
り文句は、前章に説明した通りに how many である。「兄  
弟」は前に述べた通りに brothers であるから、how many  
brothers とすればよい。

これで

君に……があるか = have you?

兄弟が幾人 = how many brothers

と、入用の語句は全部解つたわけである。それではその順  
序はさいふに、普通の疑問文は

動詞 + 主語 + 其他?

であるから、

Have you how many brothers?

さなるべき筈である。現に

「君に兄弟がある」かさいふのなら

Have you brothers?

とすればよいのであるし

「彼男に両親があるか」は

Has he parents?

とすればよいのである。

たゞし「問の語句は文の最初に置け」さいふ例の規則があ  
るから、これに従つて、問の語の how 及びそれに附随せる  
many brothers は特に、動詞や主語より前に出して、本文は

How many brothers have you?

とせんければならぬのである。それでは若し「兄弟」を「兄  
弟姉妹」の意に解すさせば、本文はさう改めたらいいであら  
うか……左様

How many brothers and sisters have you?

これでよいわけである。

## 例 題

- (131) 君には鉛筆が幾本あるか。  
 (132) 君達には先生が幾人あるか。  
 (133) あの男には叔父があるか。  
 (134) 君は万年筆を持つてゐるか。  
 (135) 彼等は辭書を持つてゐるか。  
 わけなく出来るでせう。斯んなに出来ましたか。

- (131) How many pencils have you?  
 (132) How many teachers have you?  
 (133) Has he an uncle?  
 (134) Have you a fountain pen?  
 (135) Have they dictionaries?

單數の名詞で、「～の」の意をあらはす語が附いてゐない時には、a か an を必ず附けねばならぬに注意。

\* \* \*

## 三人あります。姉妹はありません。

これは「私には三人の兄弟があります」「私には姉妹は一人もありません」といふべきを略したものであるから、そのつもりで英文に作らねばならぬ。

私には.....があります I have.....でよろしい。

三人の兄弟 three brothers でよろしい。

これまでで、一つの文になる。即ち

I have three brothers.

私には.....はありません 斯んな場合には

「私は.....ではありません」=I am not.....

の例にならつて、not を have の次に附けて

I have not.....

否定文の have としても差支ないが、普通は have の時には not でなく no を使ふ。この no を使ふと、その次の名詞は單數、複數、どちらを使つてもよし、また單數でも a, an を附けなくてよい。即ちこの no の中にはその a, an の意をも含んでゐるのである。not を使ふ場合とを對照して、次に二三の例を挙げよう。意味はどちらも同じである。

私は鉛筆を持つてゐません。

I have no pencil. = I have not a pencil.

= I have no pencils. = I have not pencils.

あの男はナイフを持つてゐません。

He has no knife. = He has not a knife.

= He has no knives = He has not knives.

こんな次第で

I have no sister(s).

これで「私には姉妹は(一人も)ない」の意をあらはすことになる。sister でも sisters でも、どちらでもよい。

### 例 題

- (136) あの子には両親がない。孤兒です。  
 (137) あの男には妻がない。やもめです。  
 (138) あの女には亭主がない。寡婦です。  
 (139) 君は英語の辞書をお持ちですか。——一冊持つて  
 るます。

(140) 私は辞書を一冊も持つていません。  
 さう六づかしくない筈だ。解らぬ英語は脚註を見て下さい。

(136) The child has no parents. He is an orphan.

(137) He has no wife. He is a widower.

(138) She has no husband. She is a widow.

(139) Have you a dictionary? — Yes, I have one.

(136) knives [naivz ナイクス] knife の複数。孤兒 orphan [ɔ:fan おーファン]。 (137) 妻 wife [waif わイフ]。やもめ widower [wɪdɔ: ウィドワ]。 (138) 亭主 husband [hʌzbənd はスバンド]。寡婦 widow [wɪdɔ: ウィドウ]。 (139) 一冊 one。

(140) I have no dictionary.

一々説明しないでも、よくお解りませうね。

\* \* \*

### 君は手に何を持つてみますか。 新しいラケットを持つてみます。

君は……を持つてゐるか have you?

手に これは「だれの」手かを明示するために your (君の) を補つて in your hand させなければいけない。(第34頁参照)。

何を what で、問の語だから、文首に置く。

これだけで、問の文は出来る。

What have you in your hand?

hand したのは、「片手」のつもりである。「両手」に持つてゐるのなら、これを hands と改めねばならぬ。

in your hand と in を使つたのは、「握つてゐる」の意を見たからだ。<sup>てのつち</sup> 掌に乗つてゐるのだつたら、これを on に改めねばならぬ。

答の文に進もう。

私は……を持つてゐます I have

新しいラケット やはり「だれの」こいふことを明示するた

めに my (私の)を補つて my new racket こそなければならぬ。

I have my new racket (in my hand).

in my hand は書いても、略してもどちらでもよい。

### 例 題

- (141) あの紳士はポケットに何を持つてゐますか。  
 (142) ポケットに扇子を持つてゐます。  
 (143) あの婦人は手に何を持つてゐますか。  
 (144) 右手に寫眞機を持つてゐます。  
 (145) あの學生は腋の下に何をかゝへてゐますか。  
 (146) 腋の下にステッキをかゝへてゐます。  
 (147) その女學生は眼鏡をかけてゐますか。  
 (148) いえ、眼鏡はかけてゐません。  
 (149) 君はその箱の中に何を持つてゐますか。  
 (150) この箱の中に私の懐中時計を持つてゐます。  
 (151) 君の姉さんは腕時計をお持ちですか。  
 (152) いえ、腕時計は持つてゐません。

racket [rɛkɪt らキト] ラケット。(141) ポケット pocket [pɒkɪt ぼキト]、  
 (142) 扇子 fan [fæn ファン]、(144) 右手 right hand [raɪt らイト]、寫眞機 camera [kæmɪrə きゃミラ] 但し懐中持の小型は kodak [kɒdæk こウダク] といふ。(150) 懐中時計 watch [wɒtʃ ウオチ]、(151) 腕時計、wrist-watch [rɪst リスト「腕頭」]。

- (153) あの男のお母さんは指輪を持つてゐますか。  
 (154) はい、大層立派な指輪を持つてゐます。  
 (155) 私は靴をはいてゐません。上靴をはいてゐます。  
 よく考へて作つて下さい。解らない英語は脚註を御覽下さい。

(141) What has that gentleman in his pocket?

たゞ pocket だけではいけない、「誰の」ポケットかを明示するために his を附けねばならぬ。

(142) He has a fan in his pocket.

(143) What has that lady in her hand?

(144) She has a kodak in her right hand.

(145) What has that student under his arm?

(146) He has a cane under his arm.

(147) Has that girl-student spectacles on?

on の次に her nose (彼女の鼻の上に)をに入れてもよいが、略す方が普通(第39頁参照)。

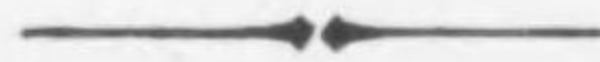
(148) No, she has no spectacles on.

on を忘れないやうに注意。

(153) 指輪 ring [rɪŋ リン]、立派な fine [faɪn ファイン]、(155) 上靴 slippers [slɪpəz スリパズ]。

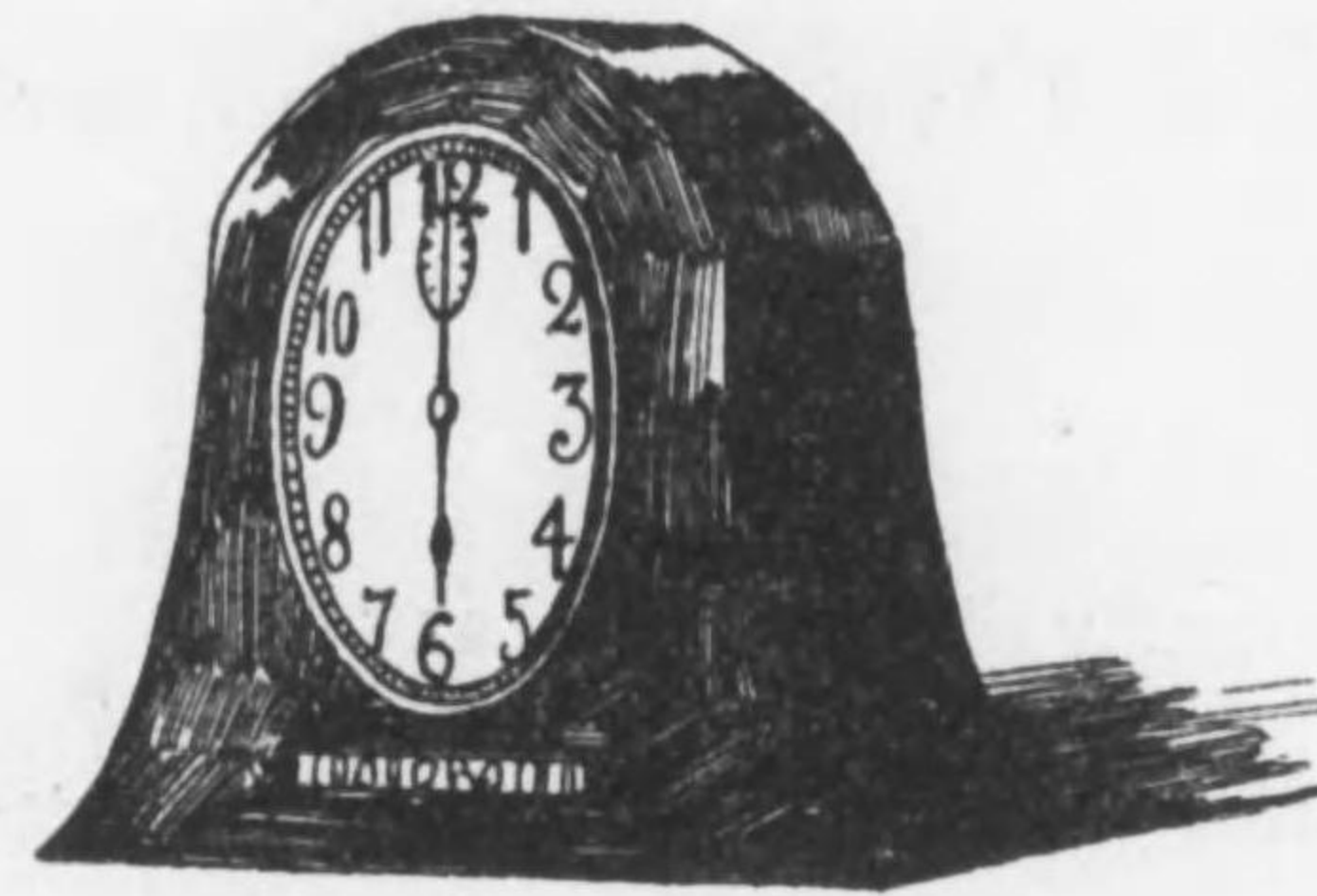
- (149) What have you in that box?  
 (150) I have a watch in this box.  
 (151) Has your sister a wrist-watch?  
 (152) No, she has no wrist-watch.  
 (153) Has his mother a ring?  
 (154) Yes, she has a very fine ring.  
 (155) I have no shoes on. I have slippers on.

例により on を忘れてはならぬ。



## 10.

## 一日に幾時間あるか



**斯**んな「……あるか」には is (are) there? を使つても、また have (has)? を使つても、どちらでもよい。先づ is (are) there? を使ふことゝして、標題の意味をあらはす英文を研究して見よう。

一日に これは「一日の中に」といふも同意だから、in を使つて in a day といふ。

幾時間 「幾」は例の how many で「時間」は hour たゞし how many の次には複數を使ふがきまりだから how many hours させなければならぬ。

day [dei でイ] 日。 hour [auə あウ] 時。



あるか are there?

この中、問の語 how がそれに附随する many hours を第一に置き、次に動詞の are を、主語の there を置き、in a day は最後に置いて、

How many hours are there in a day?

とすればよい。

have を使ふと、

How many hours has a day?

are there? 即ち「一日は幾時間を持つてゐるか」となつて結  
と have~? 局「あるか」といふも同じになる。此場合の主語は  
a day (単数) であるから、have でなく has を使ふのである。

How many hours has a day?  
動詞 主語

How many hours are there in a day?  
動詞 主語 其他

意味は二つ同じだが、主語も動詞も別物であり、day の資格が全くちがふのであるから注意していただきたい。

### 例 題

are there と have と両方を使つて、二様に作つて下さい。

(156) 一週に幾日あるか。

(157) 一月に幾日あるか。

(158) 一年に幾月あるか。

(159) 一年に幾日あるか。

(160) 一年に季節が幾つあるか。

わけなく出来るでせう。斯んなに出来たらいいのです。

(156) How many days {are there in a week?  
has a week?

(157) How many days {are there in a month?  
has a month?

(158) How many months {are there in a year?  
has a year?

(159) How many days {are there in a year?  
has a year?

(160) How many seasons {are there in a year?  
has a year?

year は「いア」で母音で始まるから an を付けねばならぬ  
なき誤解してはいけない。「や」または「イいア」で、こ  
の「イい」は即ち「ヤイユエヨ」の「イ」に當る父音である、  
「アイウエオ」の「イ」ならば母音だが、さうでないのだから注意。

\* \* \*

(157) 月 month [mʌnθ まンス]。 (158) 年 year [jə: やー]。 (160) 季節  
season [si:zn サイズン]。

## 二十四時間ある

「十三」以上の数 **前**に英語の数を「十二」まで書いたが、「十三」以上は次の通りだから、覚えていたゞきたい。

thirteen fourteen fifteen sixteen seventeen  
十三 十四 十五 十六 十七

eighteen nineteen  
十八 十九

即ち「十四」は「四」の four に teen を附けたもの、「十六」「十七」「十九」も「六」「七」「九」即ち six, seven, nine に、それぞれ teen を附けたものである。たゞし「十三」は three (三) を thir を改め、「十五」は five を fif を改めた上、teen を附けるのであり、「十八」は eight に teen では、t が二重並ぶから、een だけを附けるのである。「二十」以上も大抵これに似て teen の代りに ty を附けたものである。

twenty thirty forty fifty sixty  
二十 三十 四十 五十 六十

seventy eighty ninety  
七十 八十 九十

thirteen [θɜːtiːn 十三 | トイ | ン], fourteen [fɔːtiːn フォ | トイ | ン], fifteen [fɪfːiːn フイ | フトイ | ン], sixteen [sɪkstiːn サイクスト | イ | ン], seventeen [sevntiːn セヴント | イ | ン], eighteen [eɪtiːn エイト | イ | ン], nineteen [naɪntiːn ナイント | イ | ン], twenty [twenti トウ | エント | イ], thirty [θɜːti 十三 | トイ], forty [fɔːti フォ | トイ], fifty [fɪfːi フイ | フトイ], sixty [sɪksti サイクスト | イ], seventy [sevnti セヴント | イ], eighty [eɪti エイト | イ], ninety [naɪnti ナイント | イ],

即ち six, seven, nine はそのままに ty, two, three, five は twen, thir, fif を改めて ty, eight は ty では t が二重になるから y だけ、「四十」は four の u を削り、for に ty を附けるのである。

「二十一」「二十二」さいふには

twenty-one twenty-two twenty-three  
二十一 二十二 二十三

twenty-four twenty-five twenty-six  
二十四 二十五 二十六

twenty-seven twenty-eight twenty-nine  
二十七 二十八 二十九

と twenty に one, two, three を附け、その間に「連字符」「-」をはさむ。

「三十一」以上も同様で、thirty に one, two, three を附け、「-」をはさむ。「四十一」以上もこれから類推すればわかる筈。

これで「九十九」まで言へる筈。言つて見たまへ。

話が横道にそれたが、標題の英作文に戻るこゝ、しよう。標題の日本語「二十四時間ある」には、主語がない。日本語では「解りさへしたら略してよい」主義で略したのだが、英語では、幾度も言ふ通り、それはいけないのだから、何か補はねばならぬ。即ち

「一日には 二十四時間ある」「(それは) 二十四時間ある」

で、英文ならば there または it を主語に使へばよい。there を使ふこ

There are twenty-four hours (in a day).

it を使へば

It has twenty-four hours.

で、この it は「一日は」即ち a day の代用をしてゐるのである。

### 例 題

there are と have と 両方を使つて、二様に書いて下さい。

(161) 一週には七日ある。

(162) 一月には三十日または三十一日ある。

(163) 一年には十二ヶ月ある。

(164) 一年には三百六十五日ある。

(165) 一年には四季ある。

やさしい筈だ、出来たでせう。

(161) There are seven days in a week.

A week has seven days.

(162) または or [or]。

(164) 三百六十五日 three hundred and sixty-five days [hándrəd はンドラド]、

(162) There are thirty or thirty-one days in a month.

A month has thirty or thirty-one days.

(163) There are twelve months in a year.

A year has twelve months.

(164) There are three hundred and sixty-five days in a year.

A year has three hundred and thirty-five days.

(165) There are four seasons in a year.

A year has four seasons.

\* \* \*

### 三月、四月、五月は春の月です

月 の 名 月 の名を英語で御存知か。ちよつと六づかしいが、覚えられたら覚えてしまつて下さい。

January	February	March	April	May
一月	二月	三月	四月	五月

June	July	August	September	October
六月	七月	八月	九月	十月

January [dʒænjuəri ぢゃんじゅアリ]、February [fēbruəri フェブルアリ]、March [mɑ:tʃ ま | チ]、April [éipril エイプリル]、May [mei めイ]、June [dʒu:n ぢゅ | ン]、July [dʒulái ぢゅらイ]、August [ɔ:gəst お | ガスト]、

November December  
十一月 十二月

月の名は何處にあつても、必ず大文字で書き出さねばならぬ。  
標題の英作文に進もう。

三月、四月、五月は March, April, and May 斯んな風  
に、「ABC」を三つを並べる時は A, B, and C をいつた風  
に、一つ一つに句切符を切り、最後の前にだけ and を入れ  
る。四つ以上も同じわけで、「ABCD」は A, B, C, and D  
とし、「ABCDE」は A, B, C, D, and E とする。

春の月 the spring months とする。

四季の名	spring	summer	autumn	winter
	春	夏	秋	冬

さういふ四季の名もついでに覚えていたゞきたい。

です 主語が複数だから、is ではいけない、are でなくてはならぬ。全文は

March, April, and May are the spring months.

months と複数を使ふ理由は解るでせうね。一月だけでないからです。

September [septɛmbə セプテンバ], October [oktəubə オクエウバ], November [novɛmbə ノヴセンバ], December [disɛmbə ディセンバ], spring [sprɪŋ スプリング], summer [sʌmə サマ], autumn [ɔ:təm オクタム], winter [wɪntə ウィンタ]

## 例 題

- (166) 六、七、八月は夏の月です。  
(167) 秋の月は何々ですか。  
(168) 九、十、十一月です。  
(169) 十二、一、二月は何の月ですか。  
(170) 冬の月です。  
(171) 二月は幾日ありますか。  
(172) 平年には二十八日あります。  
(173) 閏年には二十九日あります。  
(174) 閏年には一年は三百六十六日です。  
(175) 一時間に幾分ありますか。  
(176) 一時間には六十分あります。  
(177) 一分間に幾秒ありますか。  
(178) 一分間には六十秒あります。  
(179) 一週間に七日あります。  
(180) それは日曜日、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日

(172) 平年 an ordinary year [ɔ:dɪnəri オルディナリ]。 (173) 閏年 a leap-year [li:p リーブ]。 (175) 分 minute [mɪnɪt ミニト]。 (177) 秒 second [sekənd セカンド]。 (180) 日曜日 Sunday [sʌndɪ サンドイ]、月曜日 Monday [mʌndɪ マンドイ]、火曜日 Tuesday [tju:zdi ツェルズデイ]、水曜日 Wednesday [wenzdi ウェンズデイ]、木曜日 Thursday [θɜ:zdi ースズデイ]、金曜日 Friday [fraɪdi フライデイ]、土曜日 Saturday [sætədi サタデイ]。

曜日の名も常に大文字で書き出さねばならぬ。

日、金曜日、及び土曜日です。

皆様の答案を、次のこよく比較して研究して下さい。

(166) June, July, and August are summer months.

(167) What are the autumn months?

(168) September, October, and November are the autumn months.

(169) What months are December, January, and February?

(170) They are the winter months.

主語に they を使ふに注意。

(171) How many days {are there in February?  
has February?

(172) {There are twenty-eight days in February  
in an ordinary year.  
February has twenty-eight days in an  
ordinary year.

(173) {There are twenty-nine days in February in  
a leap-year.  
It has twenty-nine days in a leap-year.

(174) {There are three hundred and sixty-six days  
in a leap-year.  
A leap-year has three hundred and sixty-  
six days.

(175) How many minutes {are there in an hour?  
has an hour?

(176) {There are sixty minutes in an hour.  
An hour has sixty minutes.

hour は父音字の h で始まつてゐるが、この h は消字で [auə] と読むのだから、an を附けねばならぬに注意。

(177) How many seconds {are there in a minute?  
has a minute?

(178) {There are sixty seconds in a minute.  
A minute has sixty seconds.

(179) {There are seven days in a week.  
A week has seven days.

(180) They are Sunday, Monday, Tuesday,  
Wednesday, Thursday, Friday, and Saturday.

## 11.

## 私共は毎日学校に行きます



**前**にも言つた通りに、英語には口語と文語との區別はない。「行く」「行きます」「まゐります」なき、いつでも同じ go といふ語を使へばよい。

私共は we

毎日 every day この every は「毎」の意で、day は「日」の意だから、二語で「毎日」となる。同じわけで

go [gou ゴウ] 行く。 every [evri エヴリ] 毎。

毎月 = every month

毎週 = every week

毎年 = every year

毎時 = every hour

ついでに覚えられたら結構である。

学校に to school で、この school (学校) には、特に a も the も附けない。to はこゝでは「……に」の意。これも in や on と同じく前置詞の一つである。

平叙文の順序は例の通り。

主語 + 動詞 + 其他

で、主語は we 動詞は go 其他には every day と to school とあるが、go (行く) のは「何處へ」「學校へ」で、その方が go に縁が近いわけだから、every day より to school の方を前に置くがよい。即ち全文は

We go to school every day.

これで立派に出来たのである。

## 例 題

(181) 私は毎日六時に起きます。

to [強く読む時は tu: と、たゞし普通は軽く短く tu と]……に。(181) 朝 morning [mó:niŋ もーニン], 六時に at six o'clock [əklɔk アクラク], 起きる get up [get Ap ゲトアプ]

- (182) 私は着物を着換えます。  
 (183) 私は私の顔と両手を洗ひます。  
 (184) 私は皆に『お早うございます』と言ひます。  
 (185) 私は朝飯をたべます。  
 (186) 私は八時に學校に着きます。  
 (187) 午前に四科目あります。  
 (188) 正午に辨當を食ひます。  
 (189) 午後に二科目あります。  
 (190) 私は二時に學校を立去ります。

日本語に主語が略してあつても、英語では何さかこれを補はねばならぬに注意。

(181) I get up at six o'clock every morning.

o'clock は of the clock (時計の) の of の i と the を省いて出來たもの。従つて「省字符」の「'」を其箇所附けるのである。「幾時」といふ時の「時」を o'clock といふ。ただし略して at six とばかり言つてもよい。

(182) 着物 *dress* [dres ドレス], 着換る *change* [tʃeɪŋg チェインヂ], (183) 洗ふ *wash* [wɔʃ ウォシ], (184) 皆に *to all* [ɔ:l オール], 『お早うございます』 “*Good morning*”, 言ふ *say* [sei セイ], (185) 朝飯 *breakfast* [brɛkfəst ブレクファスト], たべる *take* [teik テイク], (186) 着く *get to*, (187) 午前に *in the morning*, 科目 *lesson* [lɛsn レスン], (188) 正午に *at noon* [nu:n ニーン], 辨當 *lunch* [lʌntʃ ランチ], (189) 午後に *in the afternoon* [ɑ:ftənu:n アフタヌーン], (190) 立去る *leave* [li:v リイヴ].

(182) I change my dress.

「だれの」着物かを明示するために *my* を附ける。

(183) I wash my face and hands.

(184) I say “Good morning” to all.

きまりの  
挨拶 朝の挨拶には *Good morning* といふがきまりで、「お早うございます」に相當す。午後には *Good afternoon*. 夕方から後は *Good evening*. といふがきまり。また「おやすみなさい」と夜にわかれる時の挨拶には *Good night* といふ。

(185) I take my breakfast.

(186) I get to school at eight o'clock.

(187) We have four lessons in the morning.

We have.....で「私等は.....を持つ」「.....がある」

(188) I take my lunch at noon.

(189) We have two lessons in the afternoon.

(190) I leave school at two o'clock.

斯んな風に「幾時に」の「に」には *at* を使ふに注意。

\* \* \*

*evening* [i:vnɪŋ いヴニン] 夕, *night* [nait ナイト] 夜,

## 君は学校に行きますか

**疑**問文は、主語より前に動詞を置いて

Am I.....? 私は.....ですか。

Have you...? 君は.....を持つてゐるか。

のやうにするのであることは、前章までに説明した所であるが、それは實は am (are, is) と have (has) の場合のことで、其他の動詞、例へば前項に出てゐる go や wash や change なぎ、一切の動詞の場合には、疑問文でも、やはりそれは主語の次に置いて、その代りに主語の前に do といふ語を一つ餘分に置くのである。do は元來「する」「なす」なぎの意をあらはす動詞であるが、疑問文に使ふ do には、そんな意味はなく、唯疑問文であるといふことをあらはすために、他の動詞に添えるもの、即ち一種の助動詞なのである。

Do you go to.....? 君は.....へ行くか。

Do you wash .....? 君は.....を洗ふか。

Do you get up.....? 君は.....起きるか。

Do you change....? 君は.....を換えるか。

Do you leave.....? 君は.....を立去るか。

疑問文に **do** 斯んな風に、is (am, are), have (has) の外の動詞の場合、疑問文には、主語の前に do を添え、動詞

do [du: どゥ] ただし疑問文の場合は軽く短く「ドゥ」と読む。

は主語の次に置くといふことは確か覚えておいていただきたい。

さて、標題の英作文に進もう。

君は.....に行きますか do you go to.....?

學校 school で a も the も不用。

全文は

Do you go to school?

これで立派に出来たのである。

## 例 題

- (191) 君は幾時に起きますか。
- (192) 君は着物を着換えますか。
- (193) 君は顔や手を洗ひますか。
- (194) 君は皆に『お早うございます』と言ふか。
- (195) 君は朝飯をたべるか。
- (196) 君は幾時に學校に着くか。
- (197) 午前に幾科目あるか。
- (198) 君は正午に辨當をたべるか。
- (199) 午後には幾科目あるか。
- (200) 君は幾時に學校を立去るか。

これは前項の例題を疑問文に改めたものであるから、あ



れを参照すれば容易に出来る筈である。

(191) At what time do you get up?

脚註にある通り、at を略してもよし、time を o'clock にしてもよし、また When do you get up? としてもよい。

(192) Do you change your dress?

(193) Do you wash your face and hands?

(194) Do you say "Good morning" to all?

(195) Do you take your breakfast?

(196) When do you get to school?

この when を At what time (また o'clock) としてよいことは言ふまでもない。

(197) How many lessons have you in the morning?

動詞が have だから do は不用。

(198) Do you take your lunch at noon?

(199) How many lessons have you in the afternoon?

(200) When do you leave school?

\* \* \*

(191) 幾時に at what time [taim タイム] でも、at what o'clock でもよい。また at を略してもよい。また一語で when [wen ウェン] としてもよい。これは「いつ」の意。

## 私は日曜日には学校へ行きません

**否** 定文、即ち「行きません」のやうな意をあらはすには、not を使つて

I am not..... 私は.....でない。

You are not ... 君は.....でない。

I have not.....(=I have no...) 私は.....を持つてゐない。

He has not.....(=He has no...) 彼男は...を持つてゐない。

否定文に do not こいつた風にすることは、御存知の通りであるが、斯んな風に not (又は no) を動詞の次に附けるのは、これも實は is (am, are) と have (has) の場合だけで、その他の動詞の場合は、疑問文と同じく do を一つ餘計に使つて、「主語+do not+動詞」こいふ順に並べるのである。

I do not go to..... 私は.....へ行かぬ。

I do not wash..... 私は.....を洗はない。

I do not get up..... 私は.....起きない。

I do not change..... 私は.....を換えない。

I do not leave..... 私は.....を立去らない。

これだけ知れば、標題の英作文はわけなく出来る筈である。

私は.....に行きません I do not go to.....

日曜日には on Sundays 一度の日曜だけでなく、いつの

日曜日にもさいふつもりで、Sundays を複数形を使ふのである。

同じ「……に」でも「六時に」は at six o'clock

「正午に」は at noon

さいつた風に、「時」をあらはす語の前に附く「に」には at を使ふが

「日曜日に」 on Sundays

さ「日」をあらはす語の前に附く「に」には on を使ふがきまりだから、これもよく覚えて置かんければならぬ。

學校 school で、例により a も the も附ける必要はない。

語順は解つてゐるでせう。左様

I do not go to school on Sundays.

さすればよいのである。

### 例 題

(201) 君は何處にお住みですか。

(202) 公園の近くに住んでゐます。

(203) 君はフランス語を知つてゐますか。

(204) 私はフランス語を少しも知りません。

(201) 住む live [liv リヴ]。 (202) 公園 park [pa:k ぱイク]。 (203) 知る know [nou のウ]。 (204) 少しも at all.

(205) 君は果物をお好きですか。

(206) いえ、私は果物を好きません。

(207) 君は自転車をお持ちですか。

(208) いえ、私は自転車を持つてゐません。

(209) 君は日曜日に教會へ行きますか。

(210) はい、毎日曜日に教會に行きます。

もう諸君の學力は、この位の例題は苦もなく出来るまでに進んでゐる筈である。よく考へて立派な答案を作つて下さい。

(201) Where do you live?

(202) I live near the park.

さの公園か、相手にもよくわかつてゐる筈だから the を附けるのである。

(203) Do you know French?

(204) I do not know French at all.

do not をつめて一語さしたものに don't (do not の o を省いてあるのだから、其處に省字符の「'」を附ける) さいふがある。これを使つて I don't know French at all. さしても勿論よい。

(205) 果物 fruit [fru:t フルイト]、好む like [laik ライク]。 (209) 教會 church [tʃɜ:tʃ ち、イチ]、don't [daunt ドウント]=do not.

(205) Do you like fruits?

fruits を單數にし、a を附けて a fruit としても、また the を附けて the fruit としてもよい。

(206) No, I don't like fruits.

don't を do not にしてもよいことは言ふまでもない。

(207) Have you a bicycle?

(208) No, I have no bicycle.

この二つは動詞が have だから do は不用。

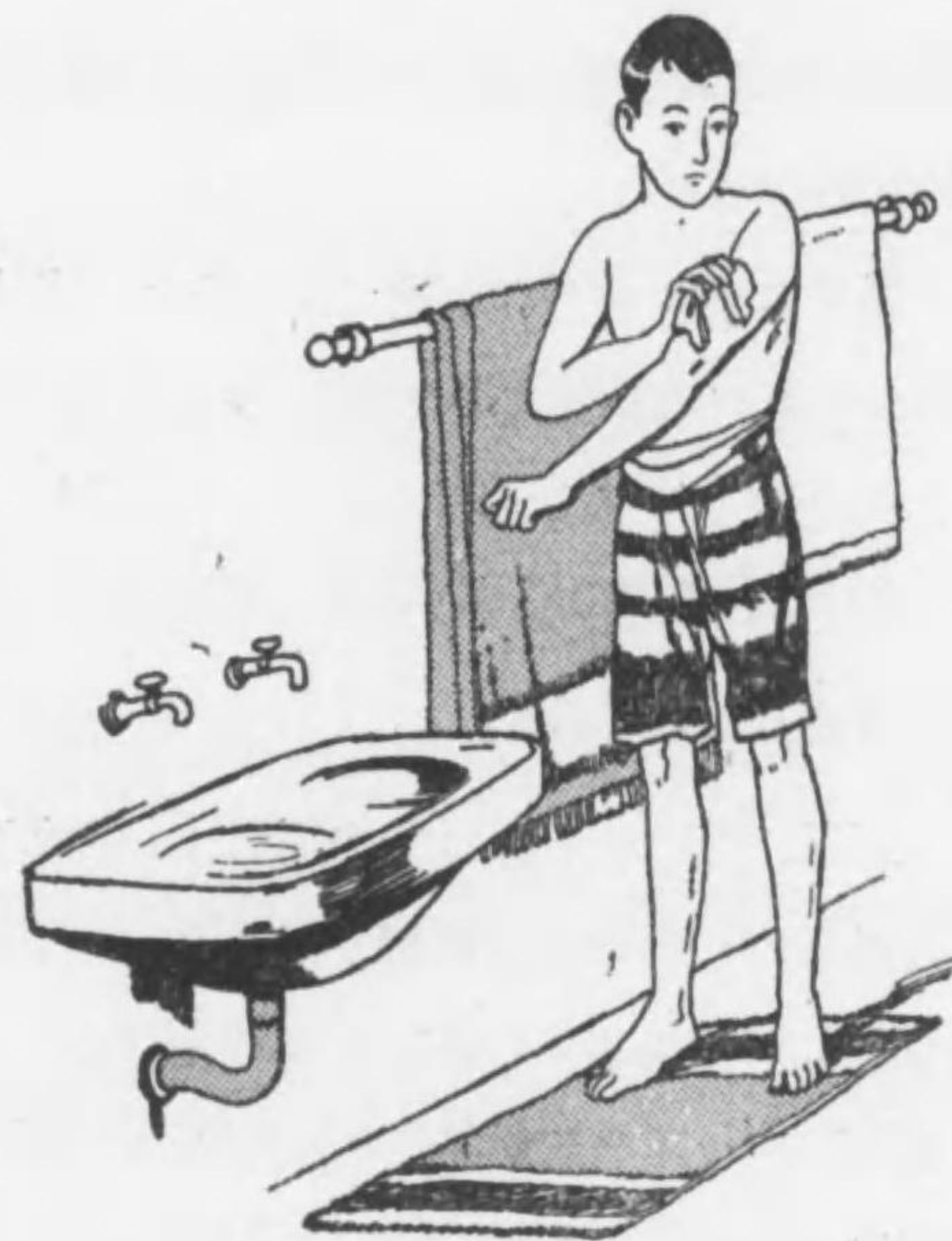
(209) Do you go to church on Sundays?

(210) Yes, I go to church every Sunday.

たゞ Sundays の時には「に」に當る on が入用だが、every (毎)が附くと on は不用、また Sunday を單數にする。every の次はいつでも單數であるに注意。

## 12.

## 弟は朝は非常に早く起きる



主語と動詞 **文** の主語が單數である、複數であるによつて、それに伴ふ動詞の形をちがへねばならぬことは、同じ「です」が

I am..... You are.....

I と you 以外の單數には is.....

複数には are

さ變り、また同じ「……を持つてゐる」が

I と you との外の單數には has.....

I, you 及び總ての複數には have.....

さ變ることは、既に御存知の通りであるが、is (am, are), have (has) 以外の動詞の場合には、

[甲] 主語が I, you 以外の單數に伴ふ時は、普通の形の語尾に s か es を附けた形を使ひ

[乙] 主語が I, you 及び總ての複數に伴ふ時は、語尾に何も附けない普通の形をそのままに使ふ。

さいふのがきまりなのである。

s と es との別 語尾に附ける s か es かの區別は、複數名詞を作る場合の s と es との區別と同じで

- (1) 語尾 s, sh, ch, x, z の語には es を附ける。
- (2) 語尾 o で、その前が父音字の語は es を附ける (母音字は s だけ)
- (3) 語尾 y で、その前が父音字の語は y を削つて ies を附ける (母音字はたゞ s を附ける)
- (4) 語尾 f か fe の語は、それを削つて ves を附ける。
- (5) 以上の外の語は全部、たゞ s を附ける。

詳しくは英文法の本を御参照下さい。

斯んな次第で、同じ「行く」でも、主語の異なるに従ひ

I go. You go. He goes. She goes

We go. You go. They go.

さなり、同じ「好む」でも

I like. You like. He likes. She likes.

We like. You like. They like.

さなるのである。

以上のことを知つて、標題の英作文の研究に進もう。

弟は my younger brother 勿論 my や younger は略して、單に brother だけでもよい。

朝は in the morning

非常に早く 「非常に」は「甚だ」も同意で very 「早く」は early だから、二語を並べて very early とすればよい。

起きる get up いや、主語が單數の brother だから、動詞 get の語尾には s を附けて gets とせんければならぬ。

語順は平叙文だから「主語+動詞+其他」で

My brother gets up very early in the morning.

さなる。

early [ˈɜːli ぁ | ㇿ] 早く。

## 例 題

第 112 頁に出てゐる例題 (181) より (190) までの主語「私は」を「彼は」に変更して作つて下さい

- (181) He gets up at six o'clock every morning.  
 (182) He changes his dress.  
 (183) He washes his face and hands.  
 (184) He says "Good morning" to all.  
 (185) He takes his breakfast.  
 (186) He gets to school at eight o'clock.  
 (187) They have four lessons in the morning.

これは原文 We have.....を They have..... に改めたのである。自分も関係してゐることで「.....ある」には we を使ひ、自分が無関係の場合には they を使ふのである。

- (188) He takes his lunch at noon.  
 (189) They have two lessons in the afternoon.  
 (190) He leaves school at two o'clock.

即ち get が gets に、change が changes に、wash が washes にさいつた風に、その動詞も、その語尾に s または es の添ふた形が使はれるに注意。

\* \* \*

## 彼は怠けてゐることを好まない

**前**章に is (am, are), have (has) 以外の動詞を使ふ否定文は、主語とその動詞との間に do not をはさんで

I do not go to.....

I do not wash.....

I do not get up.....

I do not change.....

I do not leave.....

does not さするさ話したが、主語が I さ you さの外の単数、即ち he のやうな語の場合には、この do の語

尾に es を附けたもの、即ち does さ not さを主語と動詞の間にはさむ。その代り前項肯定文\*の場合に述べたやうに、動詞の語尾に s や es を附けて、go を goes さし、get さ gets さはしない。若しさうしては、既に do に es を附けて does さするから、二重に s か es を附けることになるわけだから。即ち

He does not go to..... 彼男は.....へ行かぬ。

He does not wash ..... 彼男は.....を洗はない。

\*肯定文とは、否定文の反対で「.....である」「.....を持つてゐる」「.....へ行く」など、さうと認める文をいふ。

does [daz だズ、但し通例は軽く doz ダズ と読む。do+es だからとて、「どゝゝズ」とは讀まぬ。

- He does not get up ... 彼男は起きない。  
 He does not change ... 彼男は.....を換えない。  
 He does not leave..... 彼男は.....を立去らない。

斯んな次第で、標題の

彼は.....を好まない は he does not like..... とするるのである。

怠けてゐる こそ これは to be idle といふ。 to be.....で「.....てゐるこそ」「.....であるこそ」の意。 idle は「なまけ」「怠惰な」である。

全文は、このまゝの順序に

He does not like to be idle.

でよい。 he が主語で、like が動詞、それを否定するために does と not とが附いてゐるのである。 to be idle は、所謂「其他」の部分である。

### 例 題

- (211) 私の妹は學校に行きません。  
 (212) あの男の叔父は東京に住んでゐない。  
 (213) 彼は長崎に住んでゐる。  
 (214) あの女は洗濯するこゝを好まない。  
 (215) あの女はなまけものです。

「なまけもの」は「怠惰な女」のつもりで書けばよい。其他の英語は皆御存知の筈だ。「東京」や「長崎」はローマ字で書けばよい。たゞし、地名だから大字で書き始めるこゝを忘れてはならぬ。

(211) My sister does not go to school.

(212) His uncle does not live in Tokyo.

(213) He lives in Nagasaki.

「東京に」「長崎に」の「に」には in を使ふ。

(214) She does not like to wash.

to wash で「洗ふこそ」「洗濯」だ。

(215) She is an idle woman.

idle は母音で始まる語だから、その前には a はいけない、an を附けて「ア<sup>ン</sup>アイドル」で「アなアイドル」と読む。

\* \* \*

### 君の弟は充分に勉強しますか

**疑**問文も、主語が I か you か複数の時、動詞が is (am, are), have (has) 以外のものである時は

Do you go to.....? 君は.....へ行くか。

のやうに、do を主語の前に附けるのであるが、主語が I, you 以外の単数の場合には、否定文の場合と同様 do を does

に改めて、

Does he go to.....? 彼男は.....へ行くか。

さいつた風にするのである。

君の弟は your brother で、my の場合のやうに、この your は略すことは出来ない。

十分に勉強するか「十分に勉強す」さいふ文句は、ずつさ前に一度出てゐるが。御記憶か、忘れた方、さうしても思ひ出せぬ方は、第46頁を見たまへ。そして今度こそ、確かり覚えて、二度さ忘れないやうに注意し玉へ。

左様、study hard だ。さころで、こゝは「勉強するか」さ問ふのだから、これに does を添えねばならぬ。

順序は解るだらう、考へて見たまへ。左様、斯んな風に並べたらいゝのだ。

Does your brother study hard?

以上話した通りに

覚えてもらいたい一覽表

[肯定文]

單數	I am.....	I have .....	I go.
	You are .....	You have.....	You go.
	He is .....	He has .....	He goes.
	She is .....	She has.....	She goes.
複數	It is .....	It has .....	It goes.
	We are .....	We have .....	We go.
	You are .....	You have.....	You go.
	They are.....	They have ...	They go.

[否定文]

單數	I am not .....	I have not.....	I do not go.
	You are not...	You have not...	You do not go.
	He is not.....	He has not.....	He does not go.
	She is not.....	She has not.....	She does not go.
複數	It is not.....	It has not.....	It does not go.
	We are not....	We have not...	We do not go.
	You are not...	You have not..	You do not go.
	They are not	They have not	They do not go.

have not..... は have no..... さしてもよい。

[疑問文]

單數	Am I.....?	Have I .....	Do I go?
	Are you.....?	Have you ...?	Do you go?
	Is he .....	Has he .....	Does he go?
	Is she.....?	Has she .....	Does she go?
複數	Is it .....	Has it.....?	Does it go?
	Are we .....	Have we.....?	Do we go?
	Are you .....	Have you....?	Do you go?
	Are they ...?	Have they ...?	Do they go?

この表はよく覚えてもらいたい。上記の外、單數の主語は總て he, she, it に準じ、複數の主語は we, you, they に準ずるのである。また is (am, are), have (has) 以外の動詞は總て上表の go, goes に準ずるのである。

## 例 題

- (216) 君の學校は何處に立つてゐますか。  
 (217) 小山の上に立つてゐます。  
 (218) 太陽は何處に出ますか。  
 (219) 東に出ます。  
 (220) 何處に没しますか。  
 (221) 西に没します。  
 (222) 君の姉さんは東京にお住ひですか。  
 (223) いえ、大阪に住んでゐます。  
 (224) 秋はいつ始まりますか。  
 (225) 九月に始まります。  
 (226) 君の弟さんは英語をお習ひですか。  
 (227) いえ、英語は習ひません。  
 (228) 君の學校は幾時に始まりますか。  
 (229) 朝の八時に始まつて、午後の二時に終ります。  
 (230) 日曜日には學校はありません。
- (216) Where does your school stand?

(216) 立つ stand [stænd スタンド], (217) 小山=丘 hill, (218) 太陽 the sun [sʌn シン] 出る rise [raɪz ライズ], (219) 東に in the east [i:st い | スト], (220) 没す set [set セット], 西 west [west ウェスト], (224) 始まる begin [bɪɡɪn ビギン], (226) 習ふ learn [lɜ:n ラーン], (229) 終る end [end エンド]。

- (217) It stands on the hill.  
 (218) Where does the sun rise?  
 (219) It rises in the east.  
 (220) Where does it set?  
 (221) It sets in the west.  
 (222) Does your sister live in Tokyo?  
 (223) No, she lives in Osaka.  
 (224) When does autumn begin?  
 (225) It begins in September.  
 (226) Does your brother learn English?  
 (227) No, he does not learn English.  
 (228) When does your school begin?  
 (229) It begins at eight (o'clock) in the morning  
 and ends at two (o'clock) in the afternoon.  
 (230) We have no school on Sundays.

( )内の語は略しても差支ない。(230)の「學校がない」は We have no..... とするに注意。

總て日本語と對照して、よく研究して下さい。



## 13.

君は野球ができるか。  
出来ない。



**野**球は今も國技にも類すべき國民的遊技になつた。元來これは米國の國技で、英語では base-ball といふ……なごは、諸君もごつくに御存知のこご思ふ。

野球に限らず、總て遊技をするの「する」には play (遊ぶ) といふ語を使ふ。「野球をする」は play base-ball だ。

標題の日本語は、「君は野球をするここができるか」といふも同意だ。「……ここができる」といふ英語は御存知だらう、左様 can で「私は野球ができる」「野球をするここができる」は

I can play base-ball.

といふ。この場合、動詞は play で、can はこれに添ふてゐる助動詞である。

助動詞  
can の  
用法 この can のやうな助動詞が動詞に添ふてゐる場合には、疑問文にも否定文にも do や does の必要はない。疑問文は

Can I go? Can you go? Can he go?

のやうに can を do の位置、即ち主語の前に置き、否定文は

I can not go. You can not go. He can not go.

さいつたやうに not を can と動詞との間にはさめばよい。

助動詞は總て、主語が單數だからさいつて、do を does にするさいつた風に、その語尾に s や es を附ける必要はない。I にも you にも、we にも they にも、また單數の he にも she にも、it にも、總て can のままでよい。

base-ball [béis-bò:l ベイスボール] 野球。

また助動詞が添ふ時は、I go. が He goes. となるさいつた風に動詞に s や es を附けることもいらぬ。I can go. He can go. でよい。

以上の規則は、確かに覚えて置いていただかねばならぬ。標題の日本語の意味を英文に作つて見て下さい。以上の説明を聞いた人には容易に出来る筈だ。

Can you play base-ball?—No, I can not.

これでよい。can not は續けて cannot と書いてもよい。ただし can not と離して二語にするこ、その讀方は「きゃんのト」であるが、續けて一語にするこ「きゃノト」と讀む。

### 例 題

- (231) 君はうまく泳ぐことができるか。——はい、できます。
- (232) 君の兄さんはボウトが漕げるか。——いや、できません。
- (233) 君は馬に乗れるか。——いえ、僕は乗れないが、兄は乗れます。
- (234) 君の姉さんはテニスができるか。——はい、少し出来ます。

(232) 漕ぐ row [rou ろウ]。 (233) 乗る ride [riad らイド] .....が but [bat バト]。 (234) テニス tennis [ténis テニス]、少し a little [lítl リトル]。

- (235) 君は一日に幾哩ほき歩けますか。——一日に二十哩位は歩けます。
- (236) 僕はフットボールはうまくできない。
- (237) 彼の叔父は英語とドイツ語が話せるが、フランス語は話せない。
- (238) 弟は自轉車に乗れないが、僕は少し乗れる。
- (239) 僕は英文を讀んだり書いたりするここができます。
- (240) 併しうまく話すここはできません。

大抵諸君には容易に出来る筈だ。解らない英語は脚註を見てください。さうして立派な答案を作つてくれたまへ。

- (231) Can you swim well?—Yes, I can.
- (232) Can your brother row a boat?—No, he cannot.
- (233) Can you ride a horse?—No, I cannot, but my brother can.
- (234) Can your sister play tennis?—Yes, she can a little.

(235) 日に a day 哩 mile [mail マイル]、ほど=位 about [ábáut アバウト]、歩く walk [wɔ:k ウォーク]。 (236) フットボール foot-ball [fút-bɔ:l フトボール]。 (240) 併し=が but,

(235) About how many miles can you walk a day?—I can walk about twenty miles a day.

(236) I cannot play foot-ball well.

(237) His uncle can speak English and German, but he can not speak French.

(238) My brother cannot ride a bicycle, but I can a little.

(239) I can read and write English.

(240) But I cannot speak it very well.

よく日本文と対照して研究して下さい。

\* \* \*

**僕達は散歩に出かけてもよいか。**

**いけない。**

僕達は……てよいか 「てよい」の意をあらはす語は may で、これも can と同じく助動詞である。だから may の用法 疑問文「……てよいか」には do も does も不用、また主語が単数でも、語尾に s を付けて、mays なさる必要もない。

I may go. 私は行つてよい。

We may go. 私等を行つてよい。

You may go. 君 は } 行つてよい。  
君等は }

He may go. 彼男は行つてよい。

They may go. 彼等を行つてよい。

May I go? 私は行つてよいか。

May we go? 私等を行つてよいか。

May you go? 君 は } 行つてよいか。  
君等は }

May he go? 彼男は行つてよいか。

May they go? 彼等を行つてよいか。

さいつた風に使ふ。

散歩に出かける 「散歩」は a walk (「歩く」の意の語と同じ)で、「散歩に」は for a walk さいふ。「出かける」は「外出す」「外に行く」で go out (out は「外に」)さいふ。

May we go out for a walk?

いけない これは「いや、君は(散歩に出掛けては)ならぬ」さいふも同意で、( )内に相当する部分は略してよい。

can (できる)の反対(できぬ)は can not であるが、

may (てよい)の反対(てならぬ)は may not でなく must

for a walk [fɔːrəʊwɜːk フォウオウオク], go out [gou aut ゴウアウト],  
may [mei めイ], must [mast マスト].

must not not さいふ。

の用法 従つて、この答の全文は

No, you must not (go out for a walk).

さいへばよいのだ。

\* \* \*

**これは直ぐ書かねばならぬか。**

**直ぐ書くに及ばぬ。**

must の 「……ねばならぬ」は must で、これも can や  
用法 may と同じく一種の助動詞であるから、疑問文に  
も否定文にも do や does は不用、また主語が単数でも、語  
尾に s を付けて musts とするこゝなごはいらぬ。

I must go.	私は行かねばならぬ。
We must go.	私等を行かねばならぬ。
You must go.	君 は } 行かねばならぬ。 君等は }
He must go.	彼男は行かねばならぬ。
They must go.	彼等を行かねばならぬ。
Must I go?	私は行かねばならぬか。
Must we go?	私等を行かねばならぬか。
Must you go?	君 は } 行かねばならぬか。 君等は }
Must he go?	彼男は行かねばならぬか。

Must they go? 彼等を行かねばならぬか。

所で標題の日本語は、もつゝ解り易く書き直せば

私はこれを直ぐ書かねばならぬか。

いえ、君はそれを直ぐ書くに及ばぬ。

である。

私は……ねばならぬか Must I……?

これを this

直ぐ at once この二語で、その意味をあらはすのであ  
る。

書く write

順序はお解りであらう。

Must I write this at once?

need not 答の文の「……に及ばぬ」は need not さいふ。need  
の用法 は「要す」さいふ意の動詞であるが、need not と  
二語並ぶ時は、can, may, must と同じく助動詞の一種で、主  
語が単数でも needs not とする必要はない。

No, you need not (write it at once).

括弧内は略して差支ない。

以上説明する所により

at once [ət wʌns アトワンス] 直ぐ。 need [ni:d に | ド] 要す。

	疑問文	肯定文	否定文
注意すべ き一覧表	Can.....? できるか	can..... できる	can not..... できない
	May.....? てよいか	may..... てよい	must not..... てならぬ
	Must.....? ねばならぬか	must ねばならぬ	need not..... に及ばぬ

斯んな風に、can の否定は cannot だが、may の否定は may not でなく、また must の否定も must not でないから、まちがふ人がよくある。大に注意せんければならぬ。

(241) 僕は腰をかけてもよろしいか。——はい、よろしい。

(242) 傘を持つて行かねばならぬか。——いや、さうするに及ばぬ。

(243) テニスをしてもよろしい。——いや、いけない。

(244) 明日は幾時に學校へ來なければならぬか。

(245) 七時までに來なければならぬ。

(246) 僕はこの萬年筆を使つてよいか。

(247) はい、よろしい。併しこわさないやうに注意せんければなりません。

(241) 腰を掛ける sit down [sit daun サイトダウン]。(242) 持つて行く carry [kæri キャリ] さうする do so [sou そウ]。(245) 來る come [kəm カム]。(246) 使ふ use [ju:z ユーズ]。(247) こわさない様に not to break [breik ブレイク]。注意する be careful [bi: kəəful ビイケアフル]。

(248) 今日午後井出君の所に行つてよろしいか。

(249) はいよろしい。併しあまり長くるてはいけません。

(250) 僕は直ぐ停車場へ行かねばならぬか。——いや、直ぐ行くには及ばぬ。

(251) 四時に家を出てよろしい。

(252) この室で煙草をのんでもよろしいか。——はい、よろしい。

(253) 遊びに行つてよろしいか。——はい、よろしい、併し夕方まで歸らねばなりません。

(254) 僕は此本を讀んでよろしいか。——いや、いけない。

(255) 君はその自動車に乗つてよろしい。

よく問題を見て、思ひちがひのないやうに書いて下さい。  
さ、出來た答案を、次のを對照して見たまへ。

(241) May I sit down?—Yes, you may.

(242) Must I carry my umbrella?—No, you need not do so.

(248) 所に行く go to see [si: さい], 今日午後 this afternoon. (249) 長くる stay long [stei loŋ ステイロン]。(250) 停車場 station [steiʃən ステイション]。(251) 家を出る leave the house [li:v ulla hausハウス]。(252) 煙草をのむ smoke [smouk スモウク]。(253) 夕方 the evening. 歸る return [ritə:n リターン]。(255) 自動車 motor-car [móutə ka: もウタカ]。

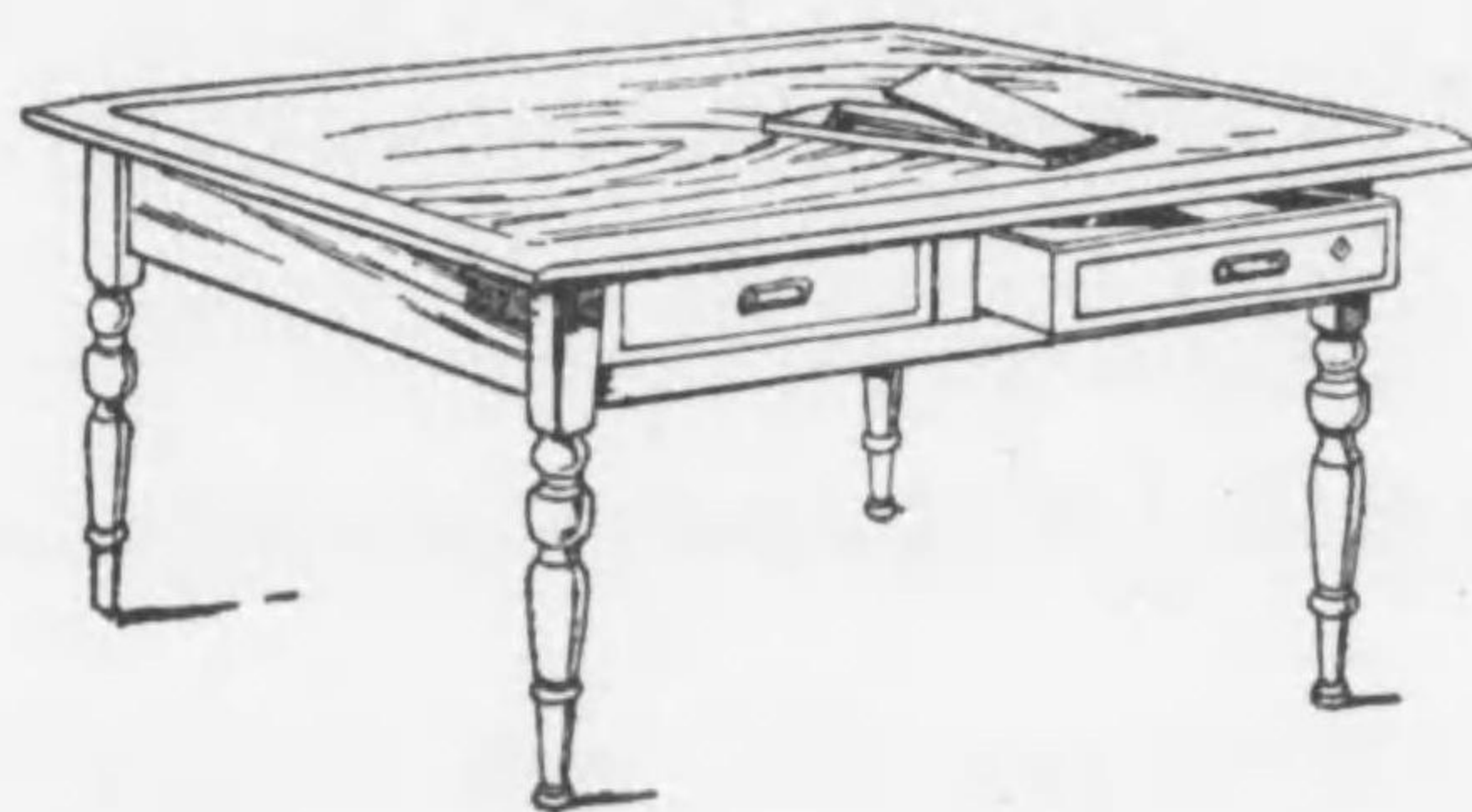
- (243) May we play tennis?—No, you must not.  
 (244) When must I come to school?  
 (245) You must come by seven o'clock.  
 (246) May I use this fountain-pen?  
 (247) Yes, you may, but you must be careful not to break it.  
 (248) May I go to see Mr. Ide this afternoon?  
 (249) Yes, you may, but you must not stay long.  
 (250) Must I go to the station at once?—No, you need not do so.

do so を go at once とするもよし。do so は「さうする」の意であること(242)に出てる通り。

- (251) You may leave (the house) at four o'clock.  
 the house は略してもよろしい。  
 (252) May I smoke in this room?—Yes, you may.  
 (253) May I go and play?—Yes, you may, but you must return by the evening.  
 (254) May I read this book?—No, you must not.  
 (255) You may ride this motor-car.

## 14.

ひきだしから筆函を出しなさい。



「何々しなさい」は、或る事を人に言ひ附ける意味の文を命令文といふ。前に度々述べた通りに、平叙文でも疑問文でも必ず主語がなくはならぬ。日本語ではこれを略して明示せぬことが往々あるが、英文には決してそれはないのである。所がひきり命令文に限り、主語は略して、動詞を文の真先きに出すのである。だから文の真先きに動詞があつて、主語のない文を見たらそれはいつでも命令文であると思つて、「何々せよ」「何々しなさい」といつた風の意味であると思つればよい。

Stand up. 立ちなさい。

Sit down. 腰をかけなさい。

Go at once. 直ぐ行きなさい。

Come here. 此處へ來なさい。

Wash your hands. 手を洗ひなさい。

これ等は皆命令文である。stand up は「立つ」sit down は「すわる」「こしかける」だが、それが文首にあつて、主語がないから、上記の通り「立ちなさい」「こしをかけなさい」といふ意になるのである。

標題の意味の英作文を研究しよう。勿論命令文である。

ひきだし drawer だが、幾つもある中の、きれか一つの意なら、これに a を付け、またそのひきだしと相手にわかつてゐる場合なら、これに the を付けねばならぬ。

から……を出す take out……of といふ。take は「取る」out……of で「から外へ」

筆函 pen-case といふ。さうしてこれに意味に応じて a または the を附ける。

順序は「動詞+何を+どこから」即ち

Take out the pen-case of the drawer.

これでよいのである。

drawer [drɔ:ə drɔ:ɪə] ひきだし。

## 例 題

- (256) 戸を閉ぢなさい。  
 (257) 窓をあけなさい。  
 (258) 茶碗を私に持つて來て下さい。  
 (259) 本を出して机の上に置きなさい。  
 (260) それをインキでお書きなさい。  
 (261) 立つてお読みなさい。  
 (262) この手紙を直ぐ郵便局へ持つて行つて下さい。  
 (263) 帽子は釘におかけなさい。  
 (264) 筆函から鉛筆をお出しなさい。  
 (265) 大きな聲でお読みなさい。

もう諸君の學力は、斯んな例題位は容易に出来るまでに進歩してゐる筈だ。みんなに出来たか。次の答案を比較して、よく誤りの有無を調べて下さい。

- (256) Shut the door.  
 (257) Open the window.  
 (258) Bring me the tea-cup.

(256) 閉ぢる shut [ʃat レット], (257) 窓 window [wɪndəu ウィンドウ], あける open [ɔpən オウペン], (258) 茶碗 tea-cup [ti:cap ティカプ], 私に持つて來る bring me [brɪŋ mi: ブリンミ], (259) 置く put [put フト], (262) 手紙 letter [létə レター], 郵便局 the post office [pəʊst ɔfɪs ぽうすと オフィス], 持つて行く take, (263) 釘 peg [peg ペグ], 掛ける hang [hæŋ はん], (265) 大きな聲で loudly [laʊdli ラウドリ].

(259) Take out your book and put it on the desk.

「～を出して……の上に置け」は「～を出せ、そしてそれを……の上に置け」といふも同じだから、此文のやうになる。

(260) Write it in ink.

(261) Stand up and read it.

(262) Take this letter to the post office at once.

(263) Hang your hat on the peg.

hat は中折や高帽、また麥藁帽のやうな「縁ヘリの附いた帽子」をいふ。軍人や學生の着る帽子、また烏打帽のやうな縁なしで「鹿ひしの附いた帽子」は別に cap といふ。

(264) Take out a pencil of the pen-case.

(265) Read loudly.

依頼文 以上のやうな命令文に please といふ語を、前又は後に付けるこ幾分語氣を和けて「……て下さい」の意となる。

Please shut the door.

Shut the door, please.

戸を閉めて下さい。

please を後に付ける時には、その前に句切符「,」を付ける。

cap [kæp キャプ] 帽子, please [pli:z プリーズ] どうぞ, if [if イフ] will [wil ウィル]。

これを一層丁寧な「どうか……て下さい」といふには

Shut the door, if you please.

こ if you please の三語を、句切符で切つて、最後に付けるか、または

Will you please shut the door?

こする。これは「どうか戸をしめて下さいますか」といつた風の問の形であるから、疑問符「?」を付けねばならぬ。

\* \* \*

## あけっぱなしにはしてはいけません

禁止の命令文 斯んな風に「何々するな」と禁止する文を、禁止の命令文または否定の命令文といふ。これは普通の命令文の前に do not または don't を付ける。

Do not open the window. 窓をあけるな。

Don't shut the door. 戸を閉めるな。

また do not や don't の代わりに、never を使つて

Never open the window.

こしてもよい。するこ一層意味が強くなつて「決して窓をあけるな」「必ず窓をあけるな」なこの意になる。

標題の文は「それをあけたままにしておくな」といふも同意。



「～を……たままにする」は leave ～…… といふ。従つて標題の意味は

Don't leave it open.

でよい。

### 例 題

(266) 立つな。

(267) すわるな。

(268) 怠けるな。

(269) 笑ふな。

(270) しゃべるな。

皆禁止の命令である。(268)の「怠ける」は「怠けてゐる」be idle で、(269)の「笑ふ」は laugh (270)の「しゃべる」は「私語する」の意なら speak together (共に語る)であるが、ひそりでべらべら口をきいてゐるのなら chatter といふ。

(266) Don't stand (up).

(267) Don't sit (down).

(268) Don't be idle.

never [névə ねぐゝ] 決して...ぬ。 laugh [la:f ら | フ] 笑ふ, together [tə'geðə たくげざ] 共に, chatter [tʃætə ちやく] しゃべる。

(269) Don't laugh.

(270) Don't speak together.

ついでながら (268) 中にある be といふ語のここに就き説明しておきたいところがある。

元來この be は is や am, are と同じく「ある」  
be の用法 「ゐる」の語をあらはす語である。

私は怠けてゐる。 I am idle.

君は怠けてゐる。 You are idle.

彼は怠けてゐる。 He is idle.

私等は正直です。 We are honest.

君等は正直です。 You are honest.

彼等は正直です。 They are honest.

斯んな風に主語に伴ふ場合には is (am, are) を使ふが、命令文の場合には、その代りにいつでも be を使つて

正直にきなさい (正直であれ) Be honest.

なまけるな (怠惰であるな) Don't be idle.

そして、この場合には決して is, am, are は使はないのである。

\* \* \*

honest [ɒnɪt オニスト, h は消字] 正直な。

強勢の命令文 **強**い命令「是非とも……しろ」こいふ場合には、普通の命令文の真先に do を一つ附ける。この場合の do は疑問文や否定文の do のやうに軽く「ドゥ」は讀まないで、強く、重く、長く「ぎっ」を讀む。

是非とも正直にきなさい。 Do be honest.

是非その戸をあけよ。 Do open the door.

是非直ぐ行け。 Do go at once.

たゞし、禁止の場合「是非共……な」の場合には、do は使はない。その場合には、前に述べた通りに never を使つて

是非なまけるな。 Never be idle.

決してその戸をあけるな。 Never open the door.

必ず笑ふな。 Never laugh.

のやうにする。斯んなこもついでによく覚えておいて願ひたい。

### 例 題

(271) ここへ君の名を書いて下さい。

(272) 鉛筆でかいてはいけません。

(273) 是非きれいに書きなさい。

(274) 決して急いで書いてはいけません。

(271) ここへ here. (273) きれいに neatly [ní:tli に | トリ].

(275) 君はさうか明日来て下さいますか。

(276) さうかそれを英文に譯して下さい。

(277) 大きな聲で話さないで。

(278) 書物をあけてはいけませんぞ。

(279) さうぞこちらへおは入り下さい。

(280) 戸をあけつばなしにしてはいけません。

よく考へたら、これもさう六づかしくはない筈である。

(271) Please write your name here.

please を最後にやつてもよいが、するこ……, please を句切符が入用。

(272) Don't write in pencil.

(273) Do write neatly.

(274) Never be in a hurry.

(275) Will you please call on me to-morrow?

(276) Translate it into English, if you please.

(277) Do speak loudly.

(278) Never open the book.

(279) Please come in.

(280) Don't leave the door open.

(275) 来て下さい call on me [kɔ:l ころ] 私を訪ねる。(276) 譯す translate [trɔ:nsleɪt トラ | ンスレイト]。(279) はいる come in.

## 15.

私はあの男が好きで、あの男はまた  
私が好きです。



**標**題の「私はあの男が好き」といふことは、「私は彼男を好む」といふも同じで、「好む」といふことをする人、即ち「好む」の主語は「私」であり、「好まれる人」即ち「好む」の目的物は「彼男」なのである。

私は	彼男を	好む
主語	目的語	動詞

同じわけで「彼男は私が好き」は「彼男は私を好む」で

彼男は	私を	好む
主語	目的語	動詞

つまり「何は、何を、何する」といつた風の文で  
主格と目的格 は、「何は」が「何する」といふ動詞の主語であり、「何を」は「何する」といふ動詞の目的語なのである、さうして、主語に使ふ時の形を、主格の形といひ、目的語に使ふ形を目的格の形といふのである。(英文法の本を御参照下さい)。

日本語は「私」「あの男」に「は」のやうなものを附ける主格となり、「を」のやうなものを附ける目的格となるが、英語では、主格と目的格には根本的に別語を使ふものが多い。即ち

「私は」は I 「彼男は」は he で、主格にのみ使ひ、  
「私を」は me 「彼男を」は him で、目的格にのみ使ふ。  
斯んな次第で、標題の英作文は

私は I

あの男が him

好き like

で and (好き、さうして...の意であるから)

あの男は he

また too または also

私が me

me [mi: み] I の目的格, him [him ひみ] he の目的格, too [tu: tu? | ] = a:so [á:lsou お | ルソウ].....もまた。

好きです like

便宜上先づ前半分だけを作るこ、いつでも斯んな文は

主語+動詞+目的語

の順に並べるがきまりであるから

I like him.

こすればよい。後半分も同じわけで

He like me.

いや、主語が単数の he であるから、動詞 like の語尾に s を附けんければならぬ(よくこれを忘れるところがあるから注意)。

He likes me.

「また」は too の方を使ふならば、最後に置いて、その前に句切符を附し

He likes me, too.

こする。also を使つたら、主語と動詞の間にはさんで

He also likes me.

こする。

さうして、この前後両方を and でつないで

I like him and he also likes me.

または I like him and he likes me, too. こすればよいのである。

この I と me, he と him といつたやうに、主格と目的格と、別の形を使はねばならぬ語は

	主格	目的格
私	I	me
私等	we	us
彼男	he	him
彼女	she	her
彼等	they	them

で、you と it, this, that, these, those なぎは、両方とも同形、即ち

君 } 君等 }	you	you
(それ)	it	it
これ	this, these	this, these
それ } あれ }	that, those	that, those

である。だからこれ等の語は「君は」こいふ時にも「君を」こいふ時にも、同じ you を使ひ、「これは」も「これを」も同じ this (複数は these) を使へばよいのである。

名詞は全部主格も目的格も同形を使ふだから

「太郎は次郎を愛す」

us [AS あス] we の目的格。 her [hə: は ] she の目的格。 them [ðem ゼム] they の目的格。 love(s) [lʌv(z) らヴ(ズ)] 愛す、愛してゐる。

Taro loves Jiro.

この場合、Taro は主語、即ち主格で、Jiro は目的語、即ち目的格であるが、「次郎は太郎を愛す」とすれば、「次郎は」が主語、即ち主格で、「太郎を」が目的語、即ち目的格となる。併し前の場合と同形をそのまま使つて

Jiro loves Taro.

とすればよい。

主格と目的格と形の變るのは代名詞の一部であつて、代名詞の或るもの、名詞の全部は、こちらにも同形を使ふ……このことはよく覚えておいてもらひたい。

### 例 題

(281) 君はあの人が好きですか。——はい、大好きです。

(282) あの人が君達を教へるのですか。

(283) はい、彼が僕等を教へます。

(284) 君はあの婦人を知つてゐますか。——はい、知つてゐます。

(285) 君達の先生は君達に親切ですか。

(286) はい、先生は僕等に非常に親切です。

(281) 大好き (= 甚だ〜を好む) like ~ very much [maɪ ʃ mʌtʃ]. (282) 教へる teach [ti:tʃ ɔɪ tʃ]. (285) 先生 teacher [ti:tʃə ɔɪ tʃə] ……に親切な kind to …… [kaɪnd kaɪnd].

(287) これは私に下さるのですか。

(288) はい、さうしてあれはあの男に差上げます。

(289) 君はあの男といつしよに毎日學校へ行きますか。

(290) はい、僕はあの男といつしよに行きます。

出来ましたか。主格と目的格を誤らぬやう、よく注意して書かねばなりません。

(281) Do you like them?—Yes, I like them very much.

「はい、大好きです」は「はい、私は彼等が大好きです」の意だから、そのつもりで書かねばならぬ。「大好き」は「甚だ好む」も同じだが、「好む」のやうな動詞に附く「甚だ」は very 一語では不可。very much と二語を使はねばならぬ。

(282) Does he teach you?

(283) Yes, he teaches us.

主語が單数の he だから、疑問文には do でなく does を使ひ、肯定文には動詞の teach 語尾に es を附けた形を使ふ。

(284) Do you know that lady?—Yes, I know her.

日本語で「はい、知つてゐます」だか、そのまま譯して Yes, I know だけではいけない。英語では主語を略してはいけないと同様に、目的語ある時は、それをも略しては不

(287) ……に下さる is for …… [fɔ: fɔɪ]. (288) に差上げる is for …… (289) といつしよに with [wið wɪz].

可なのである。「誰を」知つてゐるのか、その知つてゐるもの、即ち目的語の her を明示せねばならぬのである。

(285) Is your teacher kind to you?

(286) Yes, he is very kind to us.

前置詞の  
目的語 to は前置詞の一種で、前置詞の次に来る語を前置詞の目的語といひ、必ず目的格を使はねばならぬ。これは to の場合だけでなく、みんな前置詞の場合でも、悉くさうである。

(287) Is this for me?

(288) Yes; and that is for him.

for も前置詞だから、その次に来る語は目的格でなくてはならぬ。

(289) 'Do you go to school with him every day?

(290) Yes, I go with him.

with も前置詞だから、その次は目的格の語でなくてはならぬ。

\* \* \*

## あれは僕の寫眞機でない。 兄の寫眞機です。

**同** じ「私」「僕」でも、「の」の附く時、即ち「僕の」の場合には I でも me でもなく、また別の形の my を使ふことは御存知の通り。英文法では、

[甲] 主語に使ふ時の形を **主格**

[乙] 動詞や前置詞の目的語に使ふ時の形を **目的格**

さいふに對し、「僕の寫眞機」なさいふ場合の「僕」は **所有格** 「寫眞機」の所有主たることを示してゐる。斯んな

[丙] 所有主たることを示す場合に使ふ形を **所有格** といつてゐる。

代名詞の大部分は、この三つの格に、何れもちがつた形を使ふが、中にはその内の二つだけが同じ形であるものもある。次の表を御覽下さい。

	主格	目的格	所有格
私	I	me	my
私等	we	us	our
君 } 君等 }	you	you	your
彼男	he	him	his
彼女	she	her	her
(それ)	it	it	its
彼等	they	them	their

their [θɛə ɜə] they の所有格。

即ち you と it とは主格と目的格とが同形、her は目的格と所有格とが同形であるが、その他は全部別形である。

this, these, that, those は、主格と目的格とにのみ(同形のまま)使つて、所有格には使はない。尤も「この」「その」「あの」の意にも使はれるが、それは所有格でなくて、形容詞なのである(英文法の本を参照あれ)。

名詞は、前項にもいふ通り、主格と目的格とは同形である。所有格には、主格や目的格であるものの語尾に「所有符」「'」と s の字を付けて

あの男の子の懐中時計 = that boy's watch

この女の子の人形 = this girl's doll

のやうにする。

たゞし複数で語尾 s の語の所有格は、唯「'」だけを付けた形を使つて、

あの男の子等の懐中時計 = those boys' watches

この女の子等の人形 = these girls' dolls

のやうにする。

boy's も boys' も、boy の複数の boys と讀方は全く同じ「ほイズ」であるから、この中のどれであるか、字を見ないで、耳でのみ聞く場合には、意味から考へて判断せねばならぬ。

doll [dɒl doll] 人形。

複数でも、語尾 s でない語は、単数の時と同様に「's」を附ける。

あの子供等のナイフ = those children's knife

この人達の靴 = these men's shoes

また語尾が s でも単数の場合は、「'」だけでなく、やはり「's」を附け、それを特に「イズ」と讀む。

ジェイムズの時計 = James's watch (ぢェイムズイズ)

チャールズのナイフ = Charles's knife (ちャールズイズ)

James や Charles は、英米の男によくある名である。

つまり、名詞の所有格は

[甲] 単数は總て 's を附ける。

語尾 s の語に 's を附けるこ、s's で「ズイズ」と讀む。

[乙] 複数は、語尾が s なら 'だけを附け、s は重ねない。

語尾 s でない語は、やはり 's を附ける。

さて、話が例により大層横道にそれたが、これから標題の意味をあらはす英作文の研究に進もう。

あれは……でない that is not

僕の寫眞機 my camera 「寫眞機」の英語は、既に一度第 96 頁に出てる。

兄の寫眞機 (my) brother's camera

です 主語に it を補つて it is とする。

That is not my camera. It is my brother's  
(camera).

同じ camera が二つは拙いから、後のを略すがよい。このことは詳しく次章に説く豫定である。

### 例 題

- (291) これは太郎君の辞書ですか。——はい、さうです。  
 (292) これ(複数)もやはり彼男の本ですか。  
 (293) いえ、それは彼男の父の本です。  
 (294) この犬(複数)の主人は何處にりますか。——僕の兄達の室にります。  
 (295) あれは君の叔父の自動車ですか。  
 (296) はい、さうです。それからこれも彼の馬車です。  
 (297) あれは君達の學校ですか。——いえ、僕等の學校ではありません。  
 (298) 彼等の家は何處にありますか。——あの丘の上にあります。  
 (299) これは僕の叔母のピアノとヴァイオリンです。

(294) 主人 **master** [má:stə ま | スク], (296) 馬車 **carriage** [kéri:dʒ きゃりぢ], (298) 家 **house** [haus はウス], (299) ピアノ **piano** [pjá:nou びゃノウ], ヴァイオリン **violin** [vaiəlín ヲイアリン],

(300) これも彼女のオルガンですか。はい、——さうです。

- (291) Is this Master Taro's dictionary?—Yes, it is.  
 (292) Are these also his books?  
 (293) No, they are his father's books.  
 (294) Where is this dog's master?—He is my brothers' room.

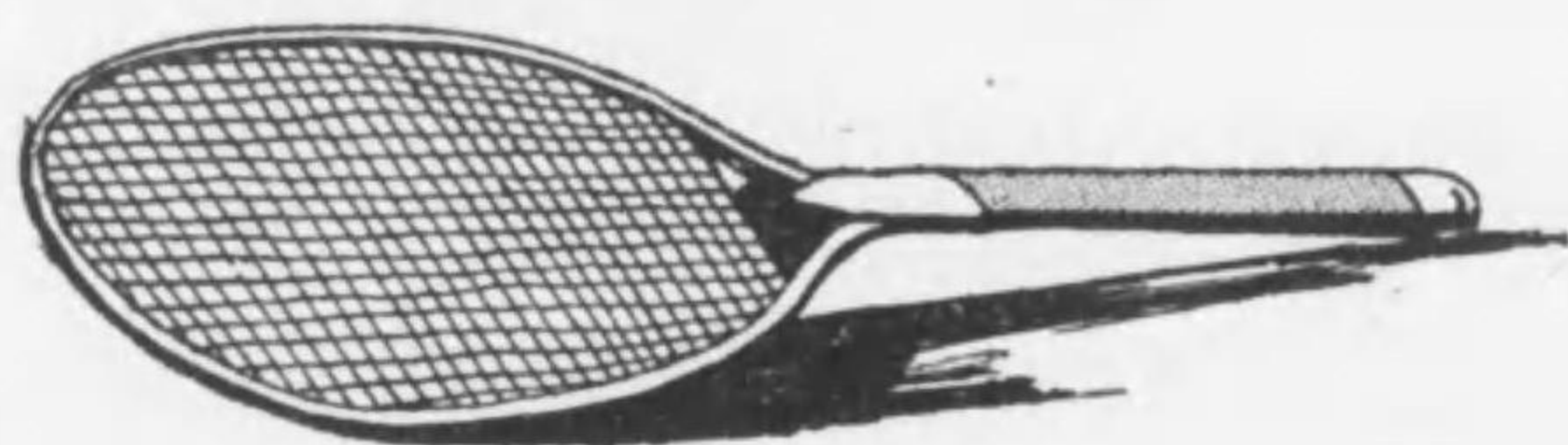
一人の「兄の」なら brother's だが、「兄達の」だから brothers' せなければならぬ。ただし耳で聞けば同じこと。即ち讀方は双方同じである。

- (295) Is that your uncle's motor-car?  
 (296) Yes, it is, and this is his carriage, too.  
 (297) Is that your school?—No, it is not our school.  
 (298) Where is their house?—It is on that hill.  
 (299) These are my aunt's piano and violin?  
 (300) Is this her organ, too?—Yes, it is.

(300) オルガン **organ** [ó:gən お | ガン].



## 16.

あの新しいラケットは君のですか  
僕ではありません

**英**語では同じ語を二つくりかへして一つの文中に書くことを大變にきらふ。日本語では「あの新しいラケットは君のラケットですか」といつても、別段おかしくはないが、英語では

Is that *racket* you *racket*?

こは言はない。同じ racket が二つくりかへされて、いやだからだ。それ故こんな場合には、さちらか一方を省くか、または別の語を使ふやうにする。

Is that your racket?

あれは君のラケットか。

これなら racket が一つになるからよい。that は「あの」の

意にも「あれは」の意にも、さちらにも使ふ。ただし

Is that racket your?

はいけない。こさばから考へたら「あれは君のラケットですか」さなるからよいわけだが、your のやうな

所有格の代名詞は、必ずその次に名詞(所有せられるものの名をあらはす語)が附いてゐなくてはならぬ。

所有格の  
獨立形 さいふ規則がある。だから your だけではいけない。必ずその次にその所有物、即ち racket のやうな名詞が附かんければならない。これを略す場合には、別に所有格の獨立形さいふものがあつて、必ずこれを使はねばならぬ。

次に所有格の普通の形、獨立形を對照して擧げて見よう。

{ 普通形	my	our	your	his	her	their
{ 獨立形	mine	ours	yours	his	hers	theirs

即ち獨立形は my さ mine さだけは、まるで別物であるが、其他は our さ ours, your さ yours さいつた風に、普通形の語尾に s の附いたもので、ただ his だけは、既に語尾が s だから、また s を付けては二重になるから、普通形をそのまま獨立形にも使ふこさになつてゐるのである。

mine [main まイン], ours [aʊəz あワズ], yours [jɔ:z よイズ],  
hers [hɜ:z はイズ], theirs [ðeəz ぜアズ].

この「普通形+s」を、名詞の所有格の「~'s」と混同してはいけない、名詞はsだけでなく「'」符が入用だが、代名詞はただsだけで、「'」符は絶対に不用なのである。

斯んな次第で

Is that racket your?

は your を yours に改めて

Is that racket yours?

ごせんければいけない。これで「あのラケットは君のですか」の意をあらはしてゐるのである。

「僕ではありません」も、同じわけで、「僕の」だけで、僕の「何」であるか、その所有物の名、即ち名詞がないから、my はいけない、必ず独立形の mine を使つて

No, it is not mine.

ごせんければならない。

### 例 題

次の文中の、所有格の普通形を、独立形を使ふやうに改作して下さい。

(301) This is not my bag.

(302) Is that your camera?

(303) It is our house.

(304) Is it his book or her book?

(305) They are their pencils.

できましたか。斯んなに出来たらいいのです。

(301) This bag is not mine.

(302) Is that camera yours?

(303) The house is ours.

これで「(あの)家は僕等のです」で、結局「(あれは)僕等の家です」と同意になる。

(304) Is the book his or hers?

「(この)本は彼のか、または彼女のか」と「(これは)彼の本か、または彼女の本か」とは、結局同意である。

(305) The pencils are theirs.

the は単数名詞にも、複数名詞にも、ごちらに附けても差支ないことは、御存知の通り。

\* \* \*

## 誰のですか 長井君のです

「誰」 といふ語も、主格、目的格、所有格、別の形を使ふ。即ち

who の 主 格 who (「誰は」の類)  
三形 目的格 whom (「誰を」の類)  
所有格 whose (「誰の」の類)

だから

彼は誰ですか Who is he? (主格)

彼は誰に行くか With whom does he go? (目的格)

これは誰の本か Whose book is this? (所有格)

問の語だから、目的格でも(それに附随する with と共に)文首に置くに注意。

それから所有格の whose は、my と mine と、  
whose の 普通形と 三形 your と yours とのやうに、普通形と獨立形の區別なく、ごちらにも同形を使ふのである。だから

これは誰の本か。 Whose book is this? (普通形)

この本は誰のか。 Whose is this book? (獨立形)

名詞の所有格の普通形と獨立形 この普通形と獨立形と、同じものを使へばよい  
ここは、名詞の所有格もさうである。

who [hu: ふう], whom [hu:m ふうム], whose [hu:z ふうズ]

これは父の本だ。 This is father's book. (普通形)

この本は父のだ。 This book is father's. (獨立形)

つまり whose 及び一切の名詞の所有格は、普通形と獨立形の區別はないのである。ごちらにも同形を使ふのであると覚えておけばよいのである。

標題の意味は

Whose is it?—It is Mr. Nagai's.

これでよいのである。

## 例 題

(306) あなたの叔父さんはあなたに親切ですか。

(307) はい、私に大層親切です。

(308) 君は度々彼に手紙を出しますか。

(309) はい、月に一度は書いて出します。

(310) この時計は誰のですか。お姉さんののですか。

(311) はい、彼女のです。

(312) あなたは誰と毎日學校へ行きますか。

(313) 私は弟といつしよに學校に行きます。

(314) 彼等は彼等の主人の農園で働きます。

[308] 度々 often [ɔ:fn おーフン], 手紙を出す write to, (309) 月に一度 once a month [wʌnz ə mʌnθ わンスアマンズ], (314) 農園 farm [fɑ:m ファーム], 働く work [wɜ:k わーく]

- (315) この靴は誰のですか。—あの紳士のです。
- (306) Is your uncle kind to you?
- (307) Yes, he is very kind to me.
- (308) Do you often write to him?
- (309) Yes, I write to him once a month.
- (310) Whose is this watch? Is it your sister's?
- (311) Yes, it is hers.
- (312) With whom do you go to school every day?
- (313) I go to school with my brother.
- (314) They work at their master's farm.
- (315) Whose are these shoes? — They are that gentleman's.

\* \* \*

### 僕のはそんな新しいのではありません 餘程古いのです

僕のは……でない mine is not……とする。尤もこの所有格の獨立形は、單數も複數も同形で、

That is my book. = That book is **mine**. (單數)

Those are my books = Those books are **mine**. (複數)

であるから、ごちらに使つてあるかによつて、それに伴ふ is は are に改めねばならぬ。一つのことを指して「私の」をいふ時は、上記の通り is not だが、二つまたはそれ以上のものを指していふのだつたら、are not させなければならぬから、注意を要する。

そんな新しいの 「新しい」は new だが、「新しいの」「新しいもの」をいふ場合の「の」「もの」には one (複數なら ones) を使ふ。解り易い例で言へば「私の辭書はよい辭書だ」を、そのまま

My dictionary is a good **dictionary**.

としたのでは、同じ dictionary が二度繰りかへされて拙いから、ごちらか一方を省く工夫をする。

前の方を省けば、my を mine に改めて

Mine is a good dictionary.

私のはよい辭書だ。

となる。後のを省く時には、代りに今言つた one を使つて

My dictionary is a good **one**.

私の辭書はよいのである。

をいつた風にする。即ち獨立形の所有格の後には、何も附ける必要はないが、其他の語を省く場合には、その代りに one (複數は ones) を使ふのである、こゝ、斯う覚えておけばよい。